

H24人口動態調査分析結果

(ファミリー・非ファミリー世帯の人口移動分析)

平成26年12月19日(金)

尼崎市政策部まちづくり企画・調査担当

調査概要

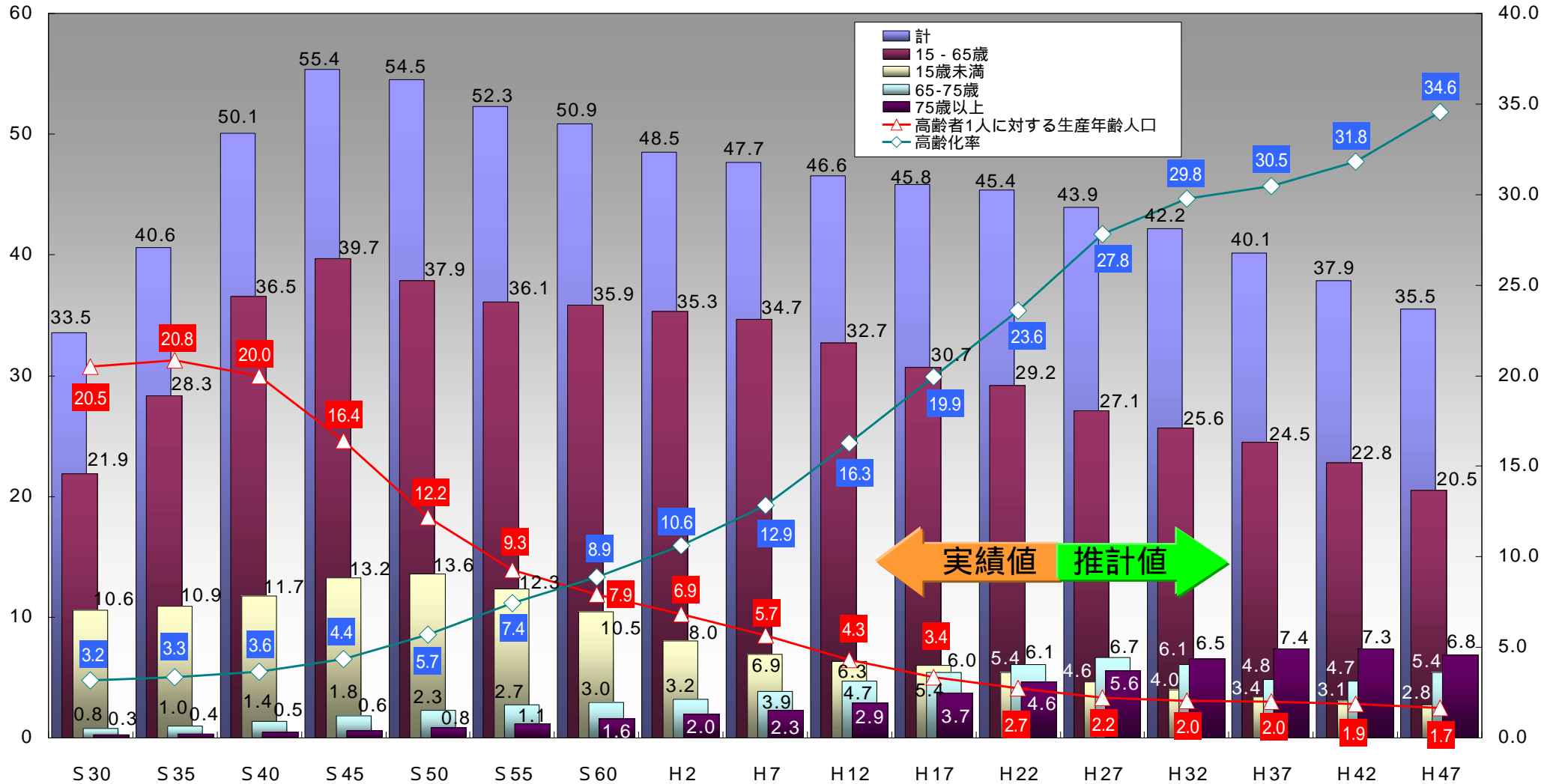
- 平成24年1～12月に転入、転出、市内間で転居した世帯を、住民基本台帳並びに課税データから分析。

		転入	転出	市内間転居
世帯数		12,004世帯	12,141世帯	10,730世帯
人数		16,435人	17,320人	19,149人
平均世帯所得		300万円	320万円	282万円
ファミリー	世帯数	1,085世帯(9.0%)	1,618世帯(13.3%)	2,305世帯(21.5%)
	人数	3,388人	5,195人	7,701人
	平均世帯所得	394万円	449万円	336万円
ファミリー以外	世帯数	10,919世帯(91.0%)	10,523世帯(86.7%)	8,425世帯(78.5%)
	人数	13,047人	12,125人	11,448人
	平均世帯所得	290万円	297万円	264万円

尼崎市の人口の推移

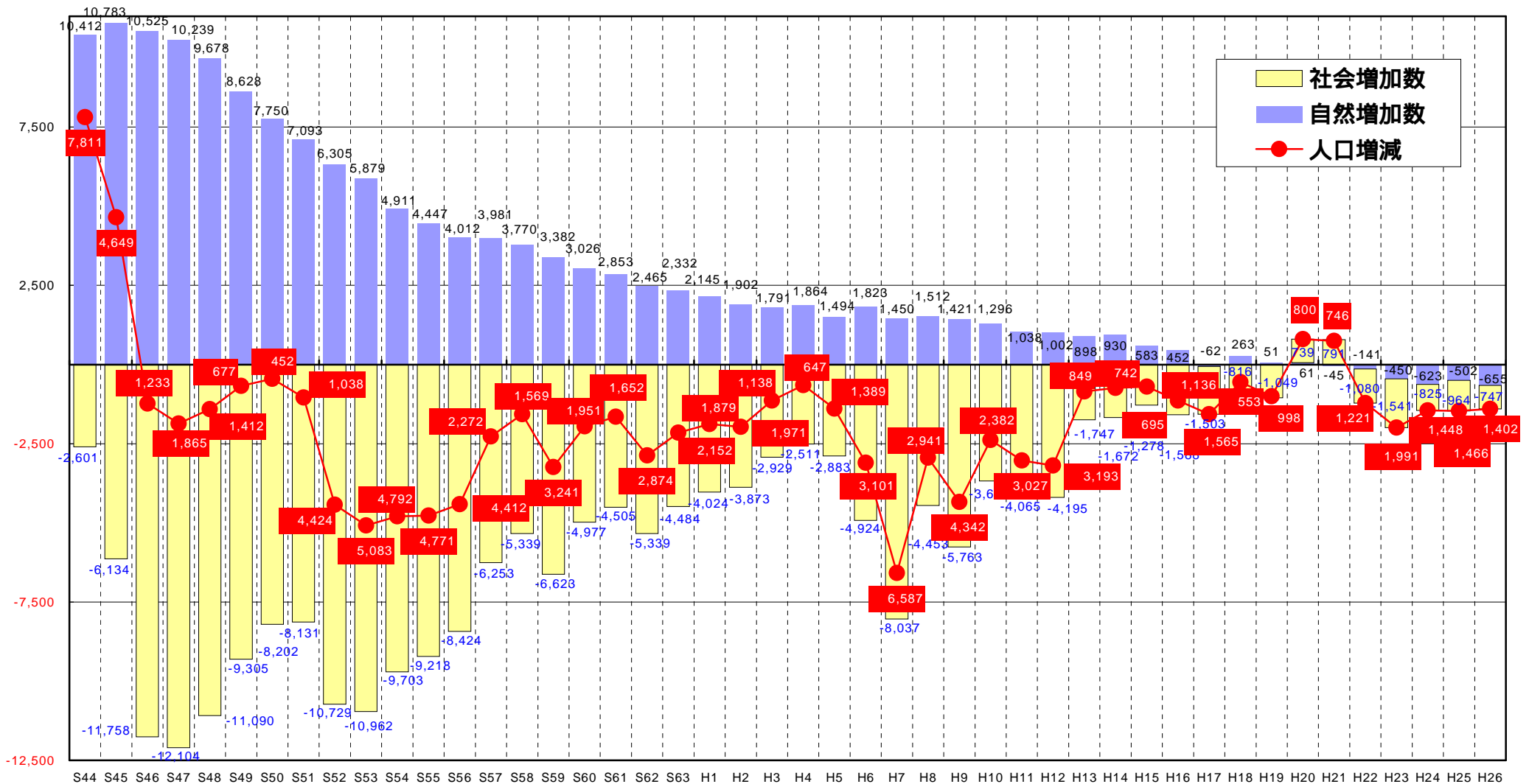
(万人)

国勢調査と社人研人口推計より (%)



H32年以降は後期高齢者が前期高齢者数を超える (H27以降は高齢化率は鈍化)。
 15歳未満人口はH22から25年後には半減すると見込まれている。

昭和44年以降の人口動態

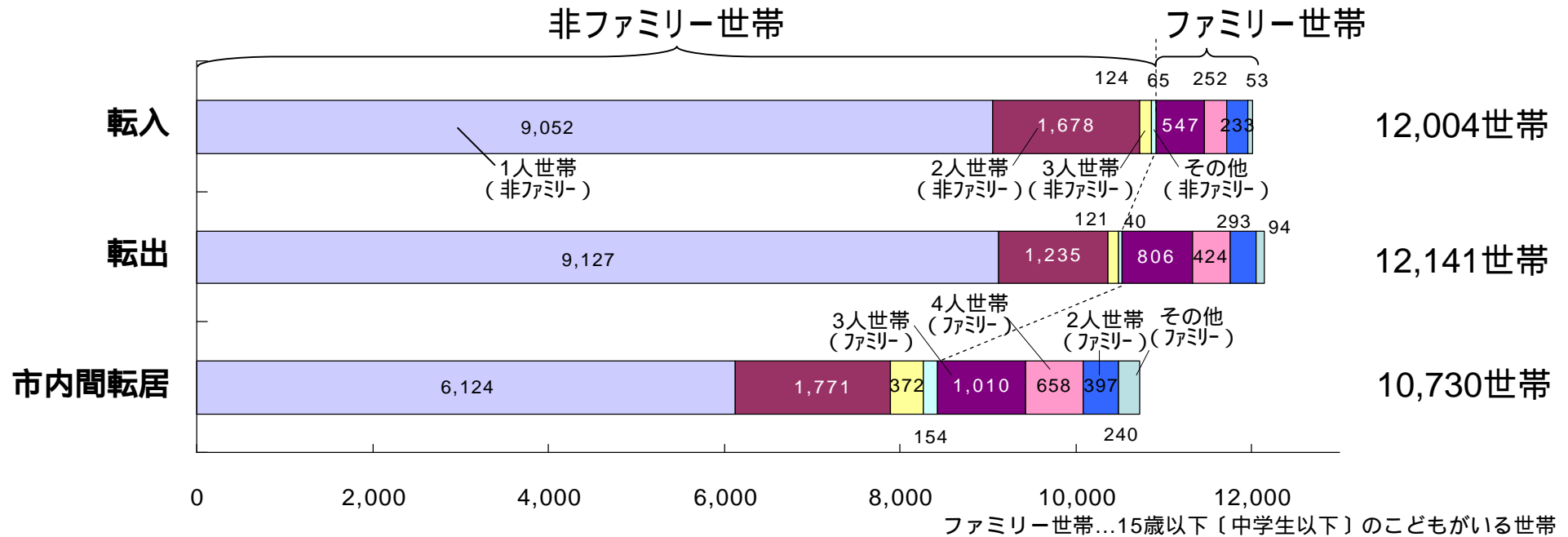


人口月報より

H17年以降は自然減が人口減少に追いつち。

社会減はH13年以降は 1千人台(H24年以降は 1千人未満)と低く推移

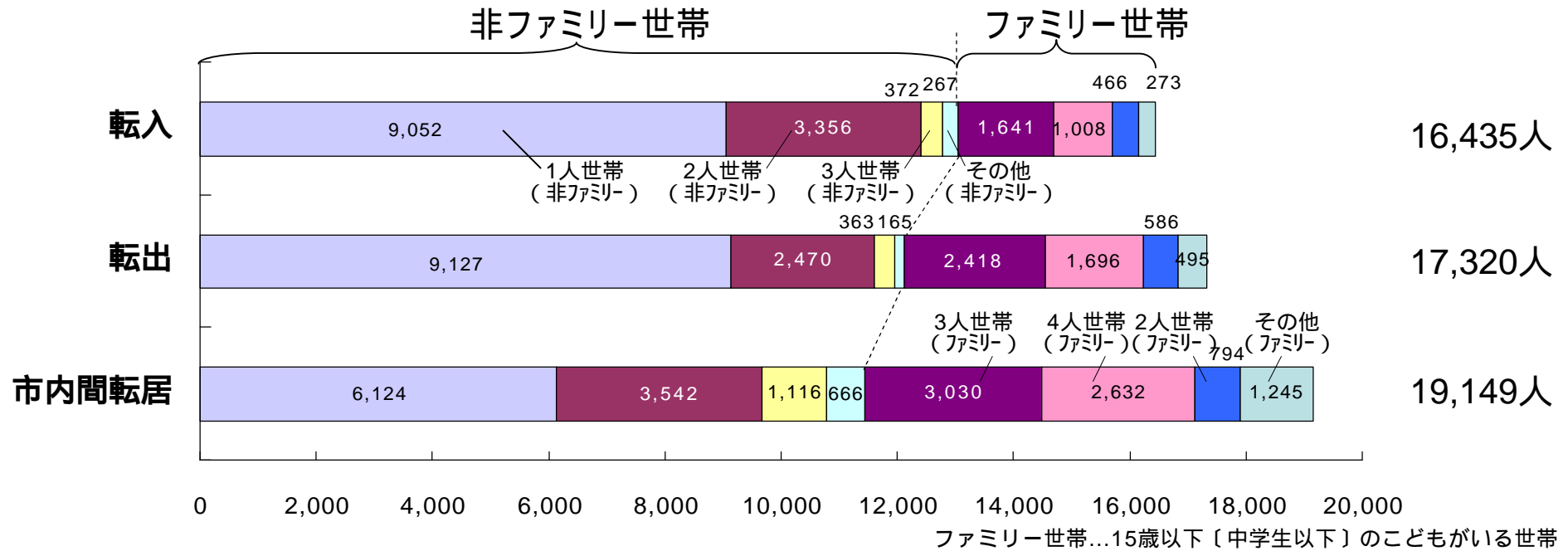
家族形態(世帯数)



- 世帯数では転入、転出、市内間転居のすべてにおいて、1人世帯が突出しており、転入・転出世帯では7割5分、市内間転居でも約5.5割を占める。
- ファミリー世帯と非ファミリー世帯の比率は転入・転出世帯で1:9、市内間転居で2:8。
- 各世帯で転出超過傾向があるなかで、非ファミリー2人世帯は比率、実数ともに転入が超過している。

本市の転入、転出、市内間転居の大多数は1人世帯である

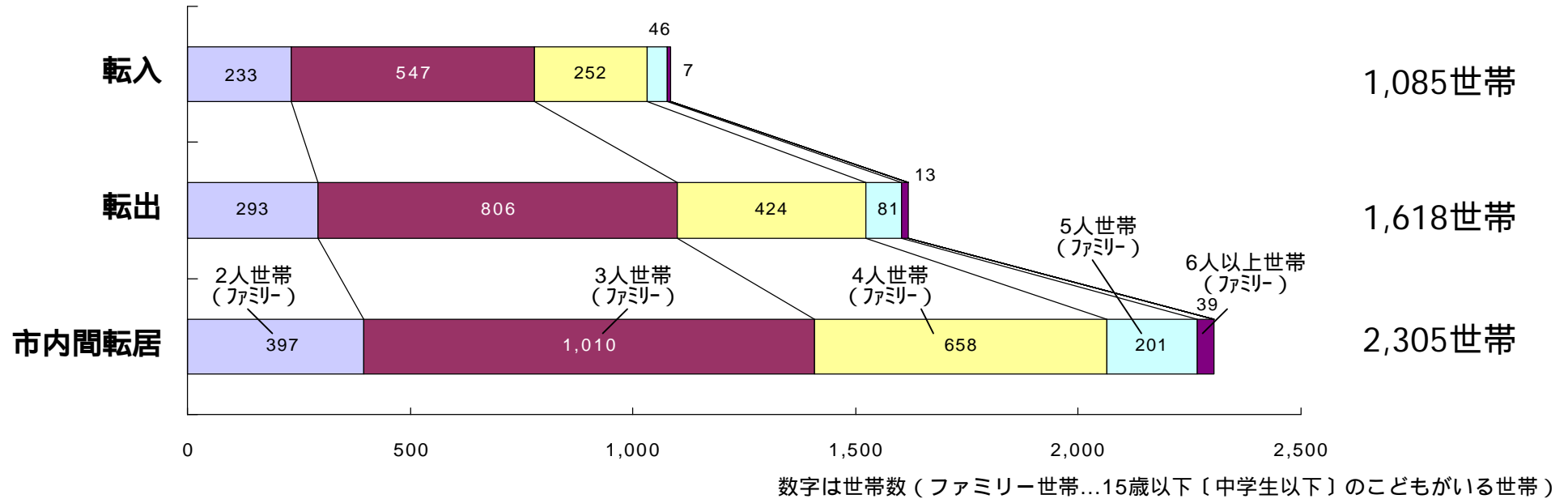
家族形態(人数)



- 人数割合では市内間転居が19千人と最も多い。(単身者の比率が低い)
- ファミリー世帯と非ファミリー世帯の人数比は、転入2:8、転出3:7、市内間転居4:6。
- ファミリー世帯全体で約2千人減、非ファミリー2人世帯で約1千人増。

市外に転出したファミリー世帯が5千人いる一方、市内にとどまった(市内間転居の)ファミリー世帯も7千人いる

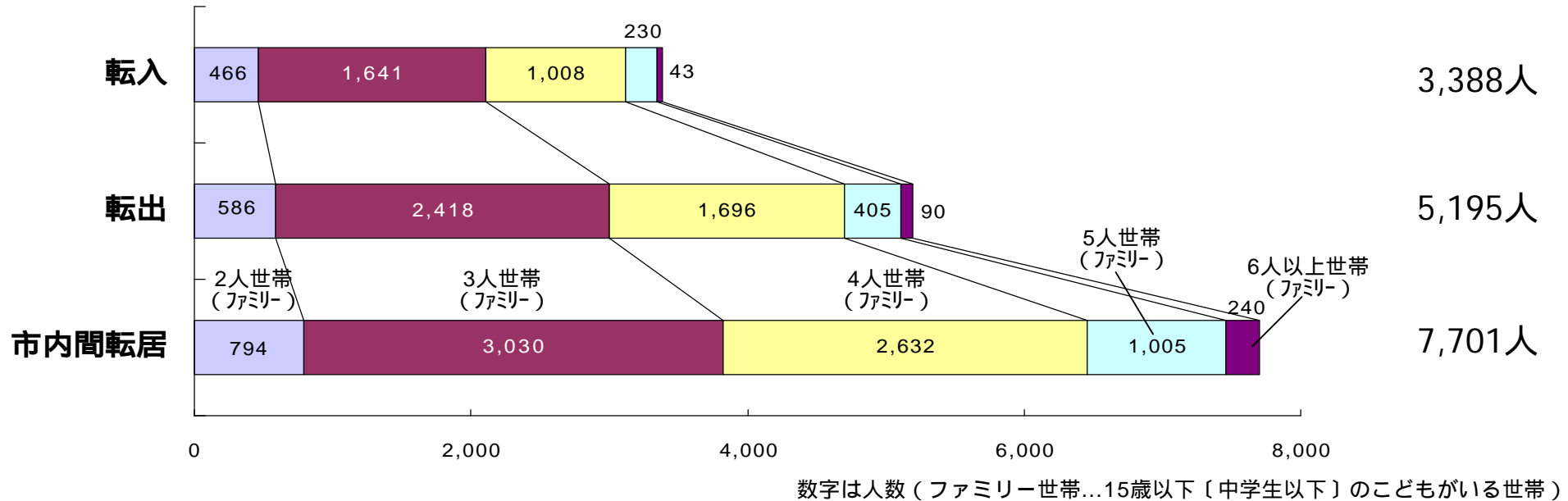
ファミリー世帯の内訳(世帯数)



- ❑ 市内間転居は転入の倍、転出の1.5倍存在する。
- ❑ 3人世帯が4～5割と最も多い。
- ❑ 4人世帯に次いで、2人世帯(大半は母子・父子家庭と考えられる)もそれぞれで2割程度存在する。

ファミリー世帯の移動は2・3・4人世帯で全体の9割を占める

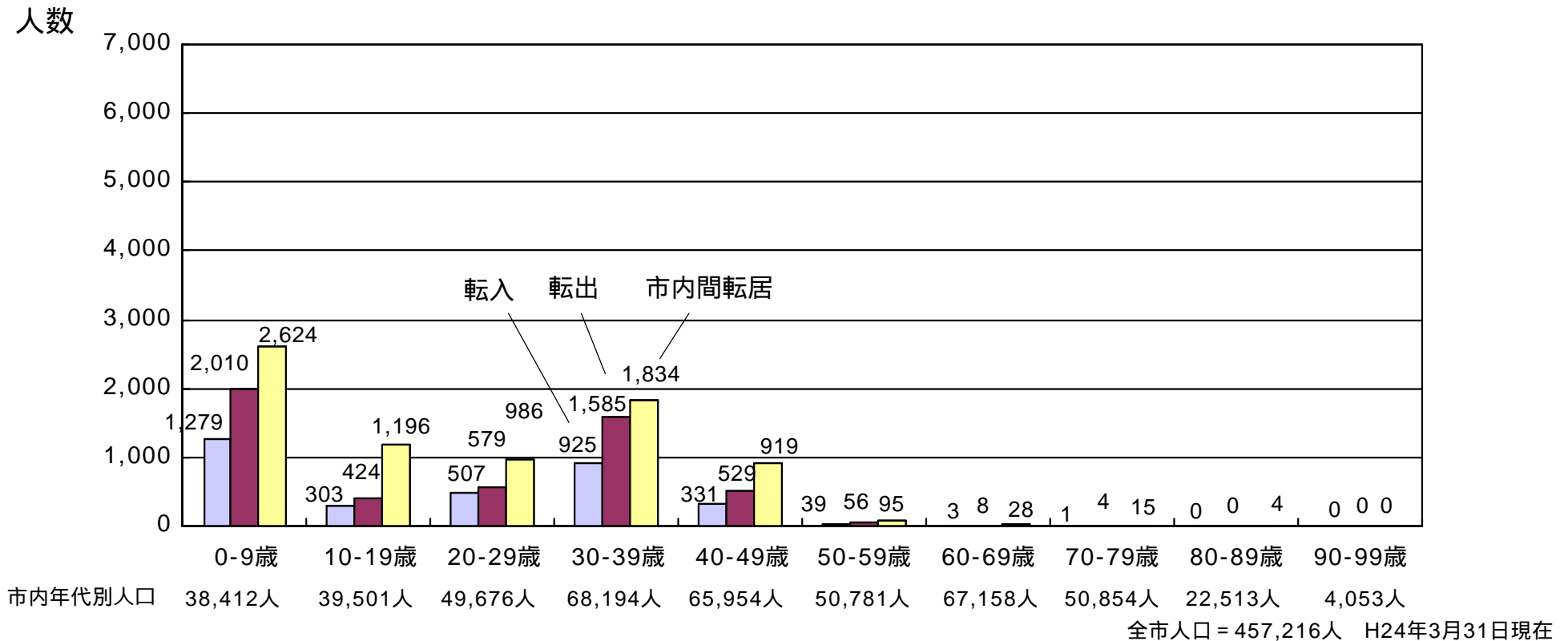
ファミリー世帯の内訳(人数)



- ❑ 世帯数と同様人数でも市内間転居は転入の倍、転出の1.5倍存在する。
- ❑ 3人世帯、4人世帯で転入、転出では8割、市内間転居でも7割強を占める。
- ❑ 2人世帯(大半は母子・父子家庭と考えられる)も全て1割程度存在し、市内間転居では5人世帯が2人世帯を上回る。

人数では3人・4人世帯が全体の約3/4を占める

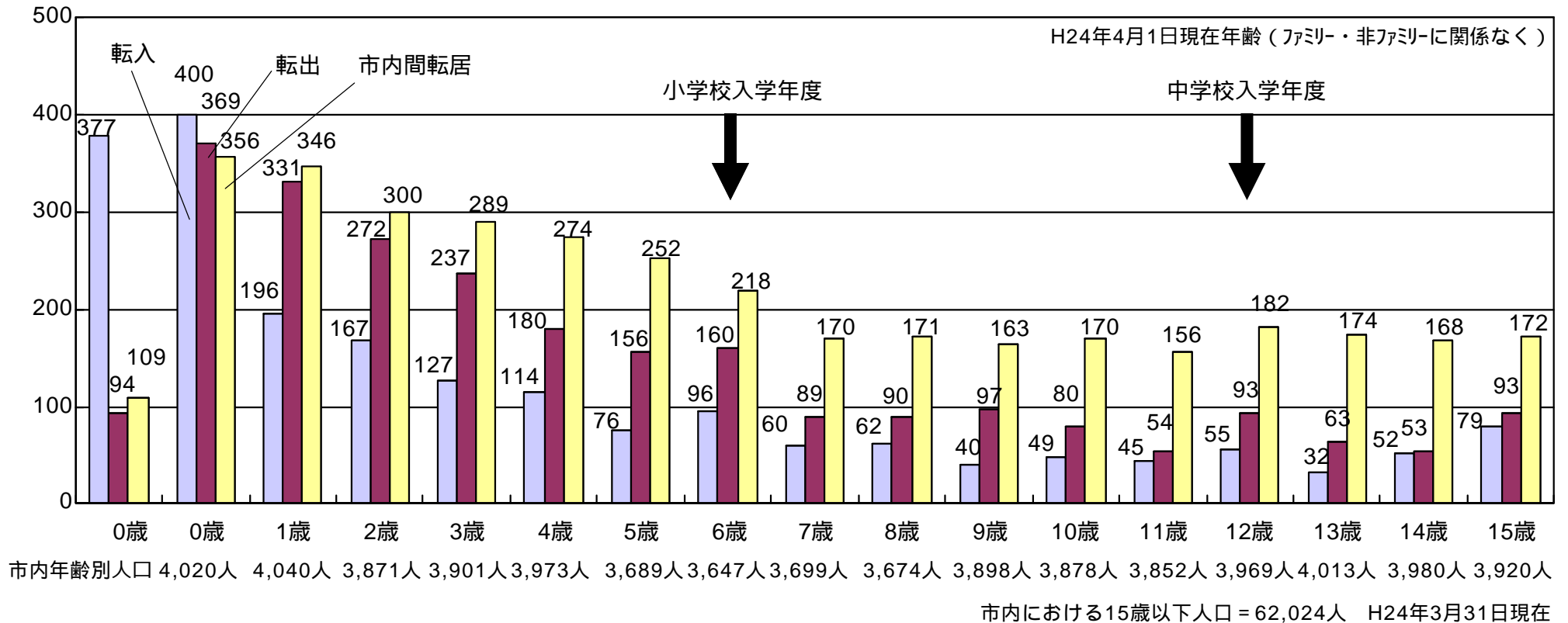
ファミリー世帯の年代別移動状況



- ❑ 全ての年齢層において、市内間転居が最も多く、次いで転出、転入と続く(転出超過)
- ❑ 移動している年代は0～9歳の子どもを持つ世帯が顕著

市内間転居がもっとも多い。全ての年齢層において転出超過

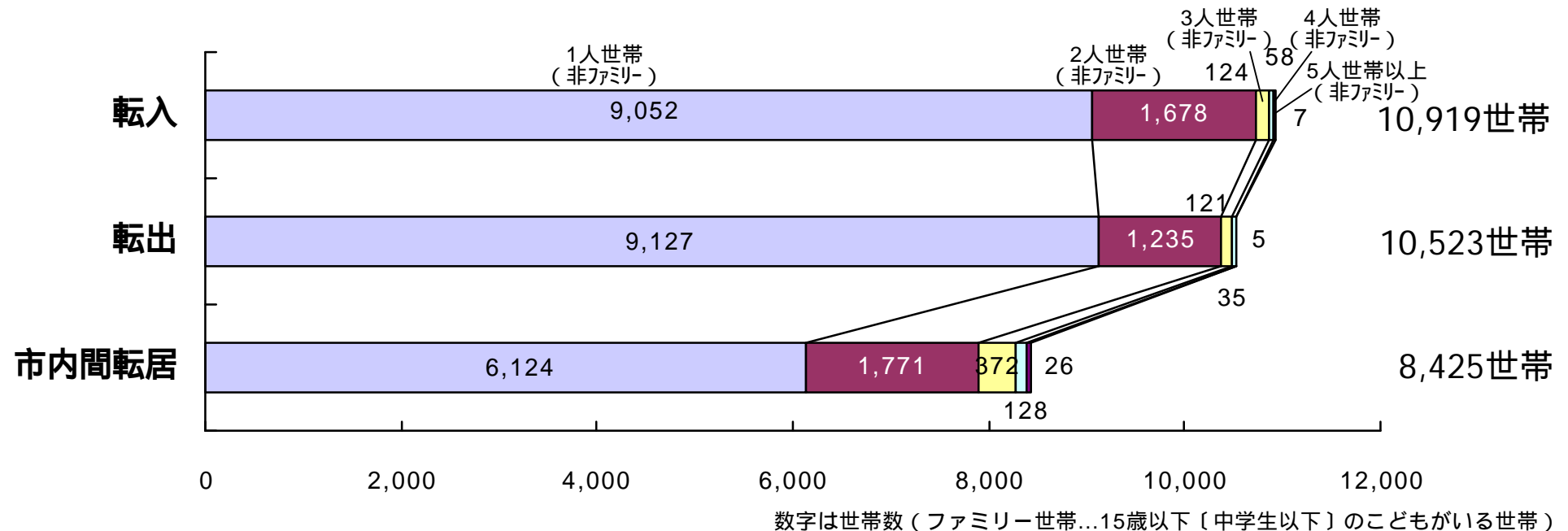
15歳以下年齢別移動状況



- 0歳の移動が最も激しく、転入超過。
- 1歳以上になると市内間転居が最も多く、次いで転出が続く、以降は転出超過。
- 1歳児以降、加齢とともに移動数はすべて減少。小学校入学年度以降は安定。

転出は小学校入学直前でなく、0歳児から始まっている

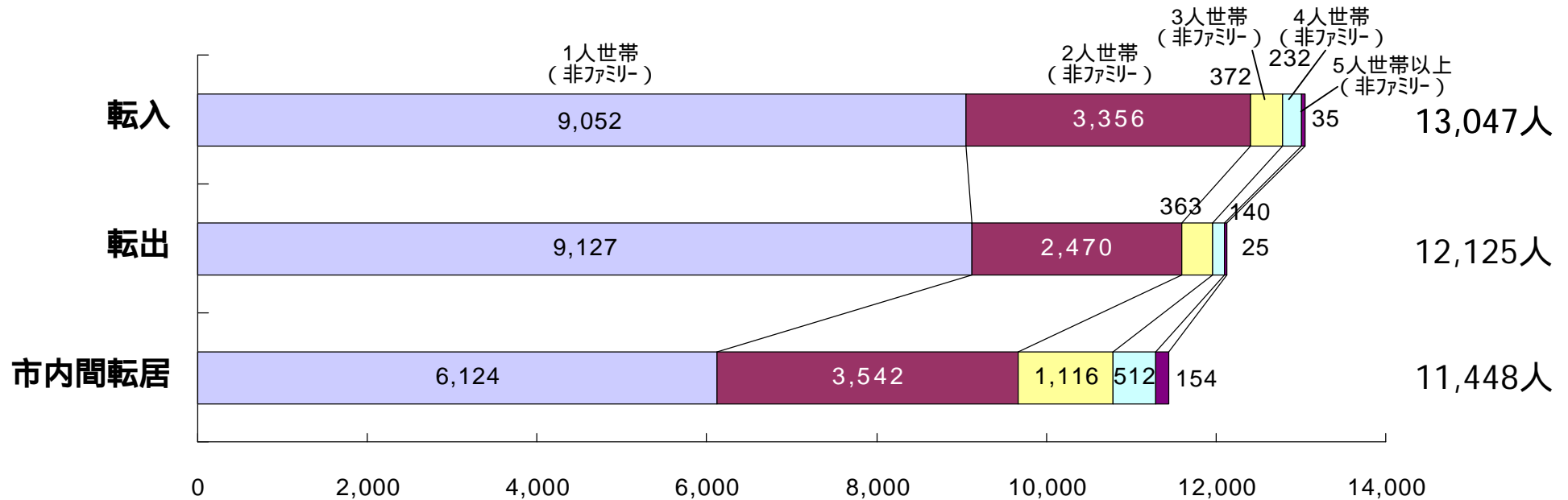
非ファミリー世帯の内訳(世帯数)



- ❑ 転入が転出を上回る。2人世帯の転入超過(約400世帯)が影響している。
- ❑ 市内間転居は1人世帯数は他と比べて少ないものの、2人世帯以上では全て転入・転出世帯数を上回る。

非ファミリー世帯では転入世帯数が転出世帯数を上回る。
その要因は1人世帯ではなく、2人世帯によるもの。

非ファミリー世帯の内訳(人数)

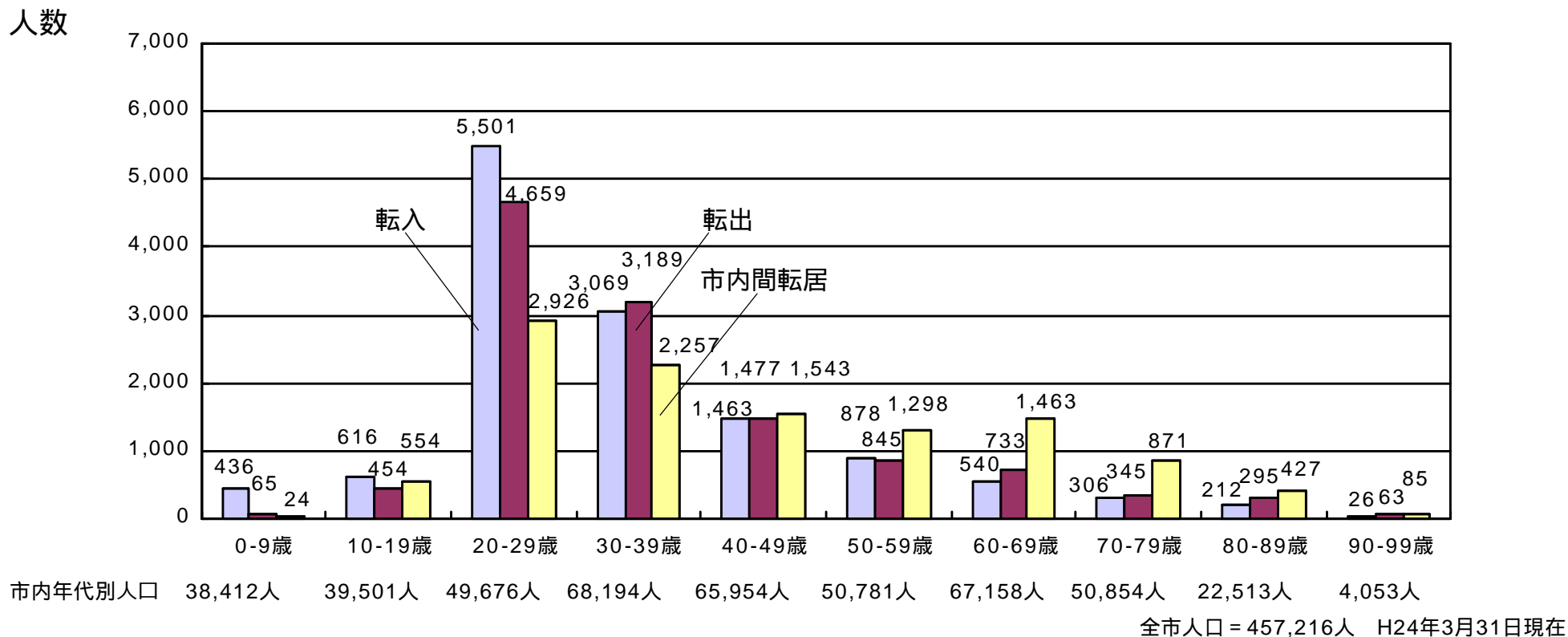


数字は人数(ファミリー世帯...15歳以下〔中学生以下〕のこどもがいる世帯)

- 転入と転出では約1千人の転入超過。1人世帯を除いて全て転入が超過している。
- 移動人数では2人世帯以上は市内間転居が最も多い。

非ファミリー世帯は転入者数が転出者数を約1,000人上回る。
1人世帯を除いて全ての世帯で転入超過

年代別移動状況(非ファミリー)

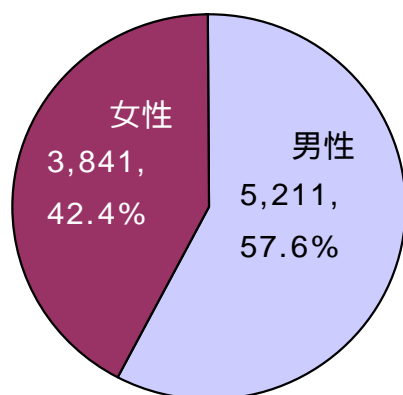


- ❑ 20代で転入超過、30代で転出超過となり、40代以降は市内間転居がもっとも多い。
- ❑ 20代の転入・転出世帯の9割、30代でも7割はこの非ファミリー世帯。
- ❑ 市内間転居は60代でもピークが生じる。

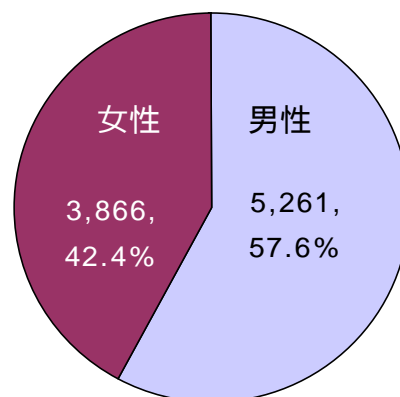
非ファミリー世帯は20代の移動が突出。この年代は転入超過

1人世帯の性別

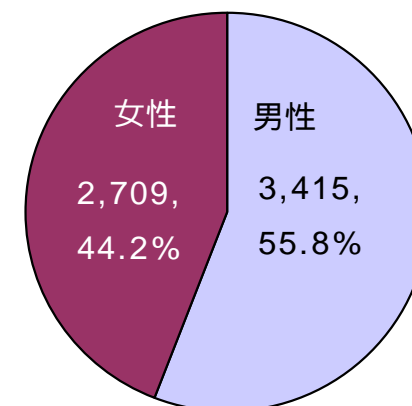
単位（人，％）



転入



転出

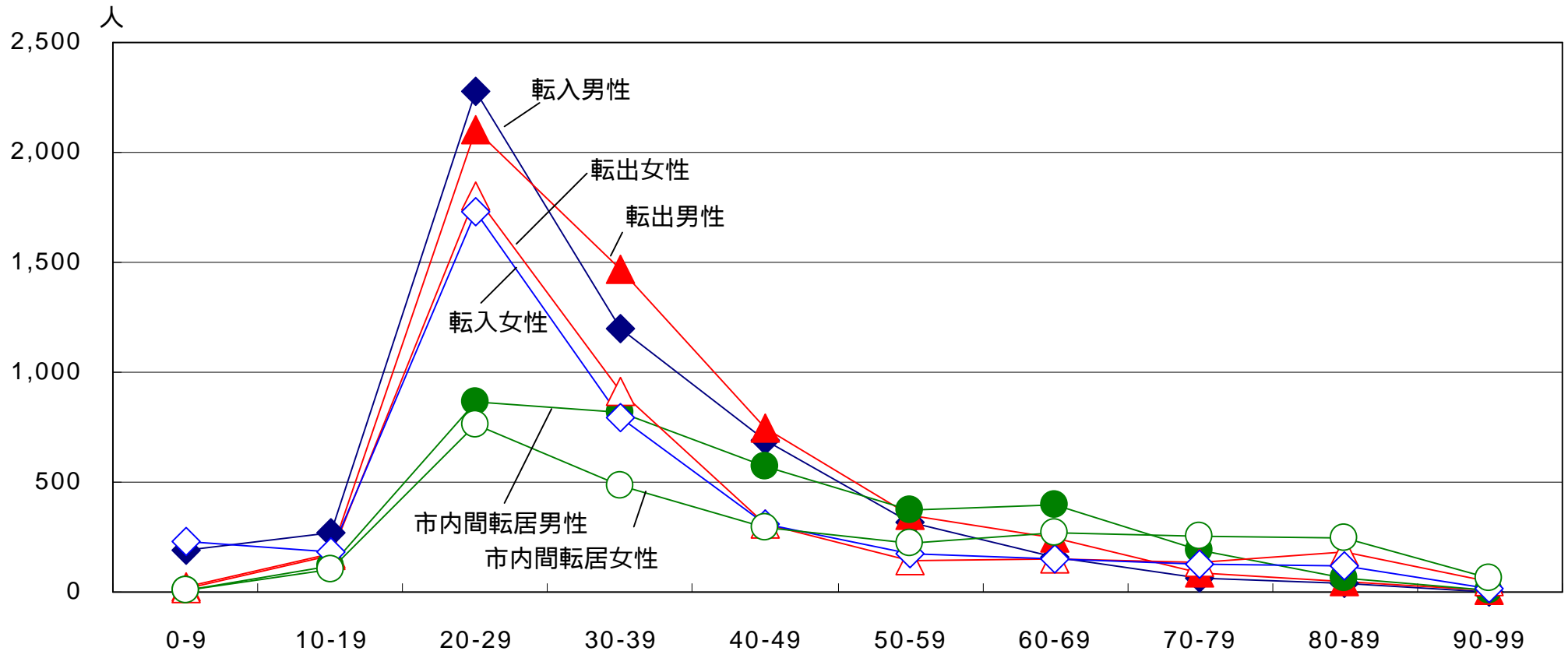


市内間転居

- 転入、転出、市内間転居ともに男性が女性をやや上回る。
- 転入、転出、市内間転居で比較すると男女比はほぼ同じ割合

男性または女性が転入に比して転出が突出などの偏りはない

1人世帯の性別と年齢

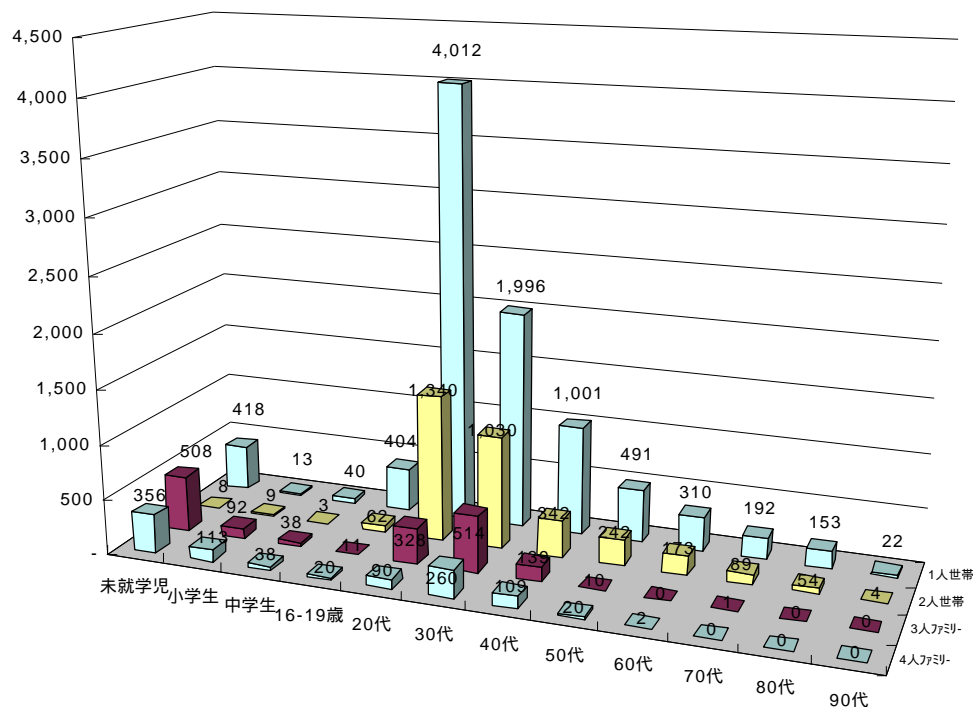


- 男性は転入、転出ともに20代がピークで、30代で転出が転入を上回る。
- 女性は転入、転出ともに20代がピークで、若干転出が転入を上回る。
- 市内間転居は転入・転出と比較して人数が少ないものの、男女ともに20代がピーク。60代にも山がある

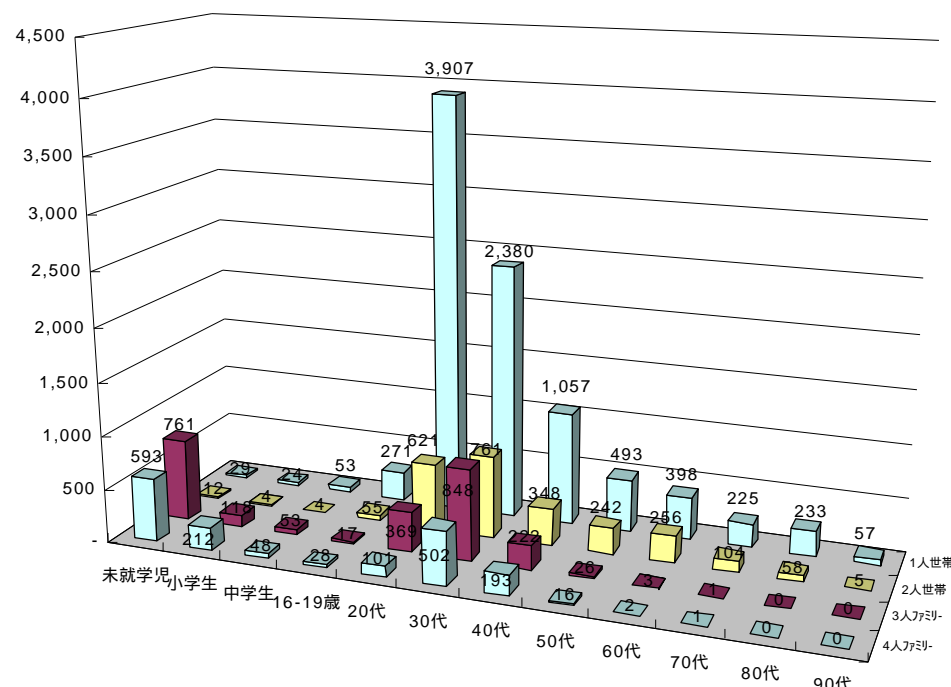
転入、転出、市内間転居ともに20代がピーク

年代別 × 世帯別 (ファミリー・非ファミリー) 転出入の状況

転入 (人)



転出 (人)

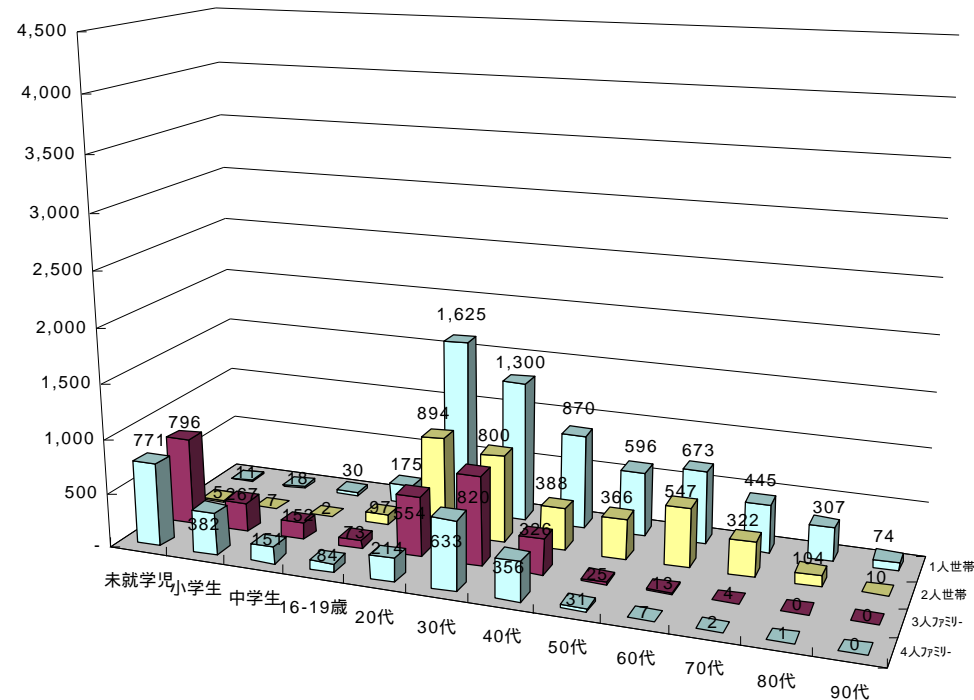


- ❑ 1人世帯では20代が約4,000人転入し、3,900人転出と全体の中でも突出。次いで同30代は約300人の転出超過。
- ❑ 非ファミリー2人世帯は20代では700人、30代は300人の転入超過。
- ❑ 3人・4人ファミリーは20代では大差ないものの、30・40代で700人強の転出超過に。
- ❑ 中学生以下の子どもでは、未就学児が特に多く、約500人も転出超過。

20～30代の2人世帯は転入超過。子どもが生まれると転出超過。

年代別 × 世帯別 (ファミリー・非ファミリー) 市内間転居の状況

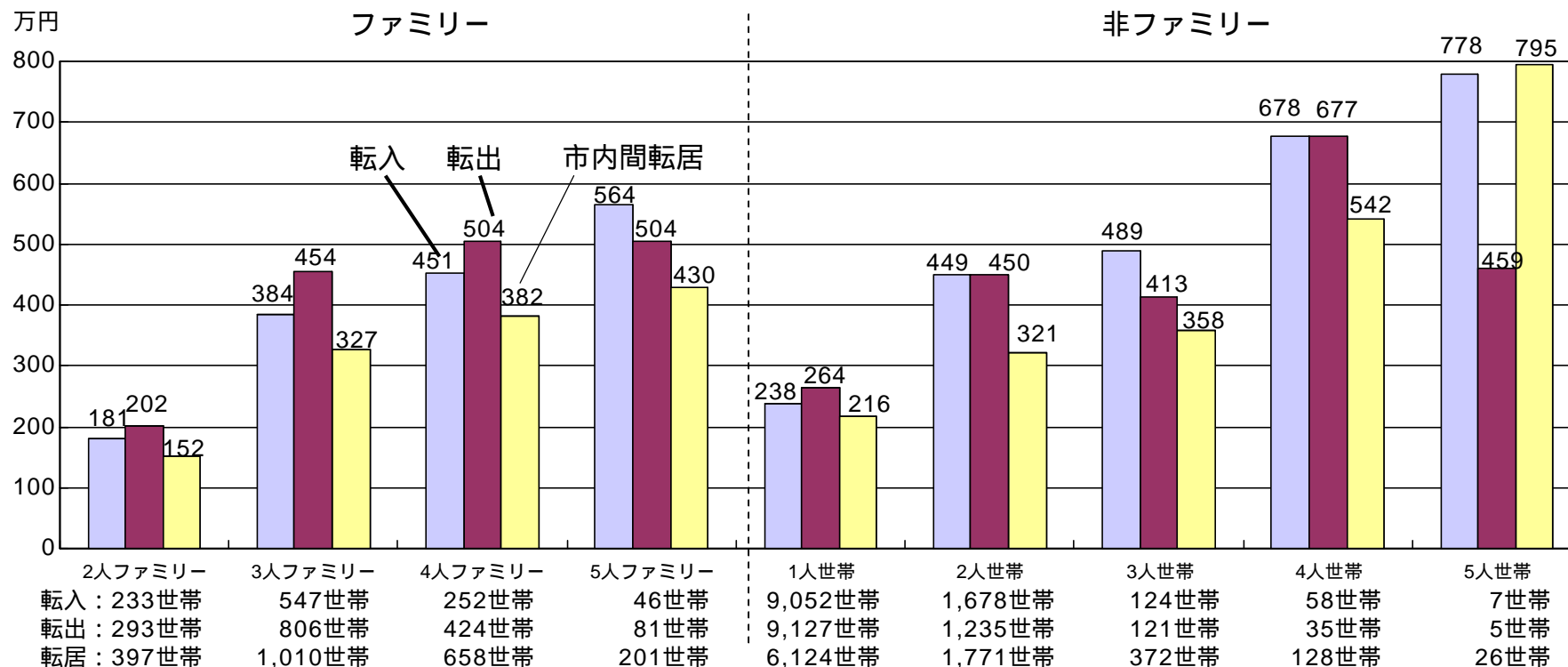
市内間転居 (人)



- 1人世帯の移動のピークは転入・転出の半分以下。
- 非ファミリー2人世帯の移動が転出よりも活発。20、30代に加え60代にも山が。
- 3人・4人ファミリーや、中学生以下の子どもの移動は転出世帯とほぼ同数の動きをしている。

ファミリー世帯の市内間転居世帯は転出世帯とほぼ同数存在

平均所得(ファミリー・非ファミリー-世帯)

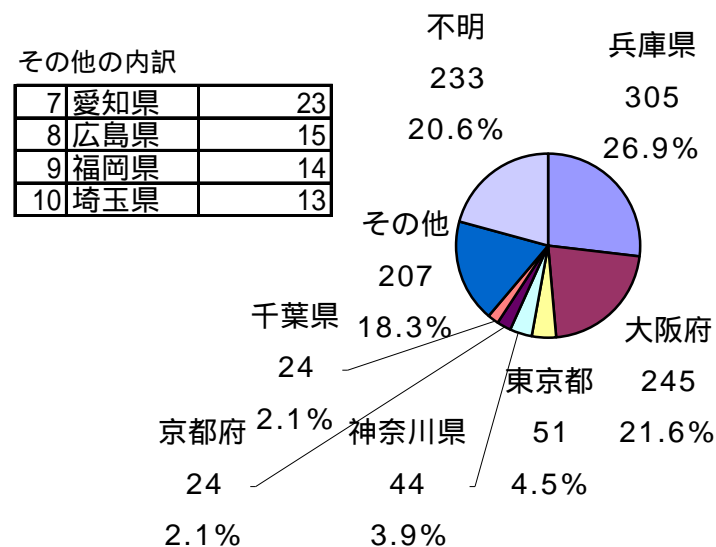


- 平均所得は世帯人数別では非ファミリーが相対的に高い。
- 世帯数、人数で大半を占める2人～4人世帯では、市内間転居の平均所得が最も低い。
- ファミリーでは平均所得で転出が転入を上回る。非ファミリーでは転入が転出を上回るか、ほぼ変わらず。

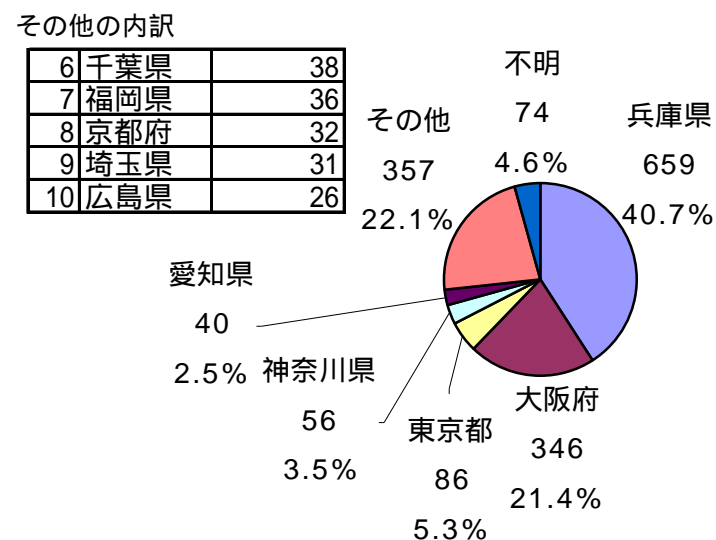
ファミリー、非ファミリーでは、**転出 転入 > 市内間転居**。
転出・転入と市内間転居は平均所得で100万円以上の差

都道府県別転入元、転出先上位5都府県(ファミリー)

転入元ベスト5 (世帯数)



転出先ベスト5 (世帯数)

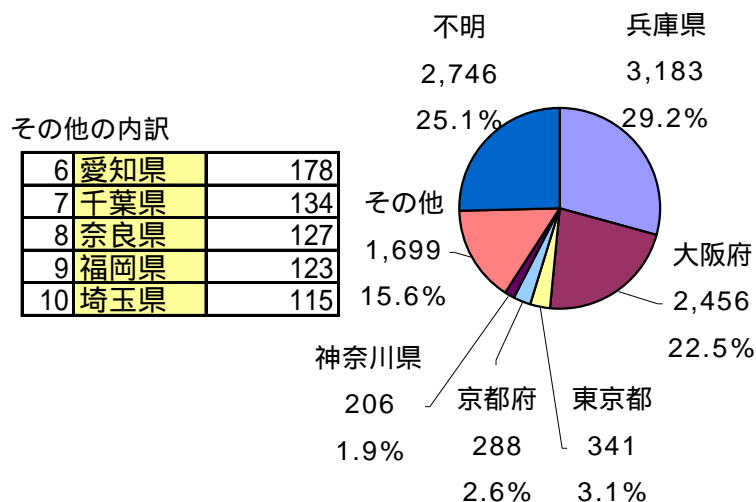


- 転入、転出ともに兵庫県内、大阪府内の2府県で約半数を占める。
- 3,4位は東京、神奈川と続き、10位までは順位は異なるが、転入・転出ともに同じ府県がランクイン。

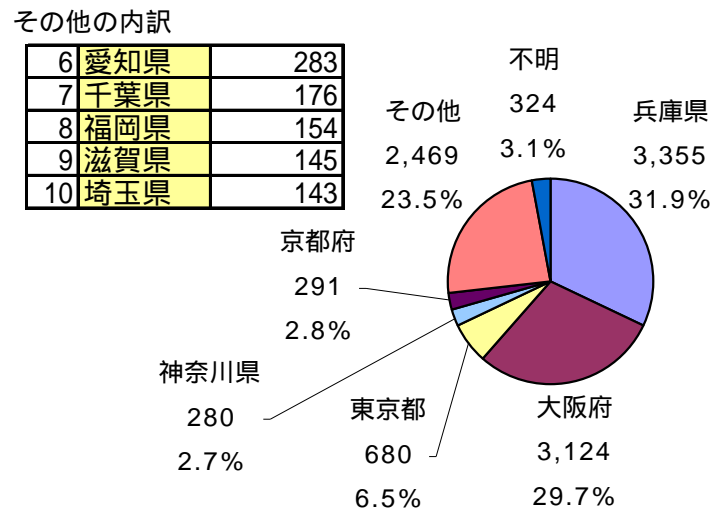
兵庫・大阪への転出が半数程度いる一方で、市内居住と比較できないと思われる地域(京阪神及び滋賀以外)への転居も約3割存在する

都道府県別転入元、転出先上位5都府県(非ファミリー)

転入元ベスト5 (世帯数)



転出先ベスト5 (世帯数)



- 転入、転出ともにベスト10の府県はほぼ同じ。ファミリー世帯とも同様の傾向(滋賀・奈良と広島が入れ替わる)。
- 兵庫県内、大阪府内の2府県で半数を超える。次いで東京都と続く。

兵庫・大阪への転出が半数程度いる一方で、市内居住と比較できないと思われる地域(京阪神及び滋賀以外)への転居も約3割存在する

兵庫・大阪・首都圏(1都3県)との転入転出比較 H16とH24

ファミリー世帯		H16		H24	
		転入世帯	転出世帯	転入世帯	転出世帯
兵庫県		361	640	305	659
		279		354	
大阪府		246	270	245	346
		24		101	
首都圏	東京都	39	74	51	86
	神奈川県	47	78	44	56
	千葉県	37	49	24	38
	埼玉県	21	32	13	31
計		89		79	

非ファミリー世帯		H16		H24	
		転入世帯	転出世帯	転入世帯	転出世帯
兵庫県		2,861	2,728	3,183	3,355
		133		172	
大阪府		2,714	2,074	2,456	3,124
		640		668	
首都圏	東京都	334	403	341	680
	神奈川県	208	218	206	280
	千葉県	158	132	134	176
	埼玉県	119	95	115	143
計		29		483	

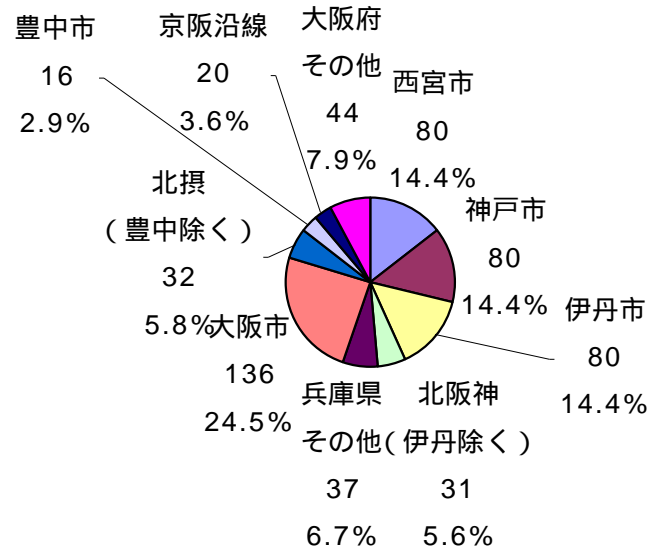
白抜き文字が超過部分(世帯数)

- ファミリー世帯は、H16年とH24年を比べると、大阪府・兵庫県は転出超過が拡大。首都圏は同程度で変わらず。
- 非ファミリー世帯は、H16年は兵庫県、大阪府、千葉県、埼玉県4府県で転入超過だったが、H24年は4府県を含む全てで転出超過。世帯数はマイナスに反転。

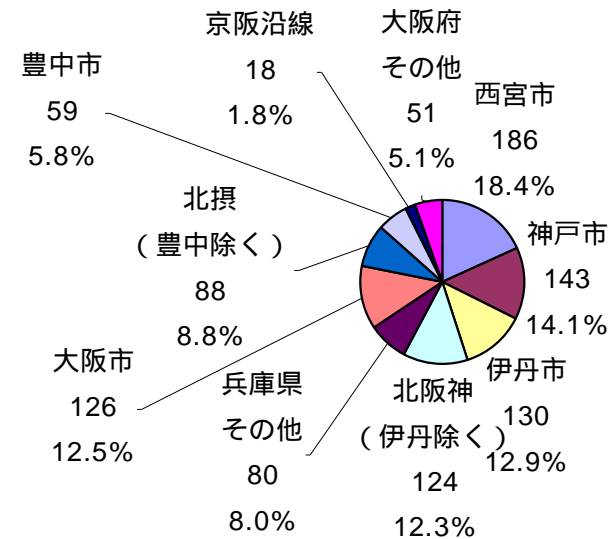
ファミリー世帯、非ファミリー世帯ともに転出超過傾向が拡大。非ファミリー世帯の転出超過が著しい。

大阪府・兵庫県 転入元、転出先(ファミリー)

転入元 (世帯数) n=556



転出先 (世帯数) n=1,011

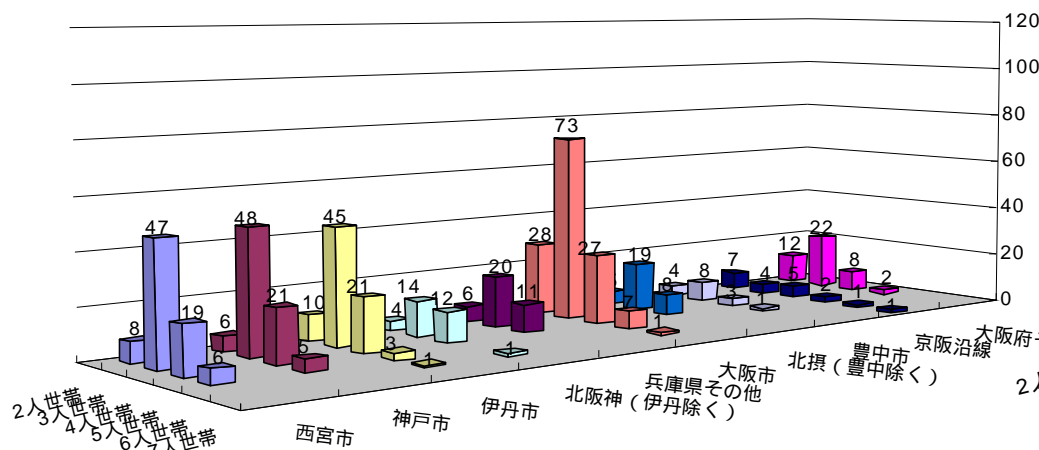


- ❑ 転入は兵庫県下では、西宮、神戸、伊丹が同数。転出は西宮市がトップで神戸、伊丹と続く。
- ❑ 転出は全世帯と比べて大阪市の占める割合が約半減。そのため大阪市のみ転入超過。
- ❑ 非ファミリー世帯と同様、西宮市、神戸市、伊丹市、大阪市への移動が約6割。
- ❑ 豊中市への移動は転入、転出ともに少なく、離れている神戸に劣る。

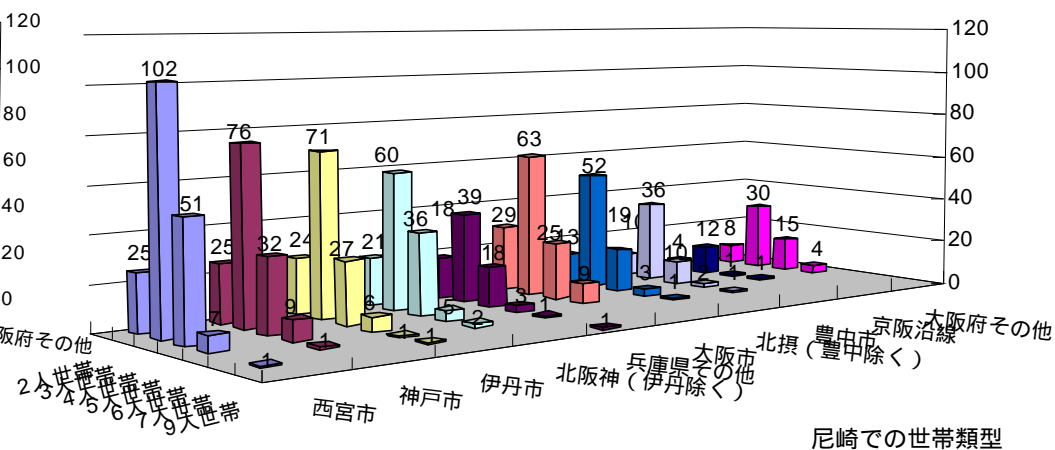
ファミリー世帯においては大阪市のみ転入超過

世帯数 × 大阪府・兵庫県 転入元、転出先(ファミリー)

転入元 (世帯数) n=556



転出先 (世帯数) n=1,011

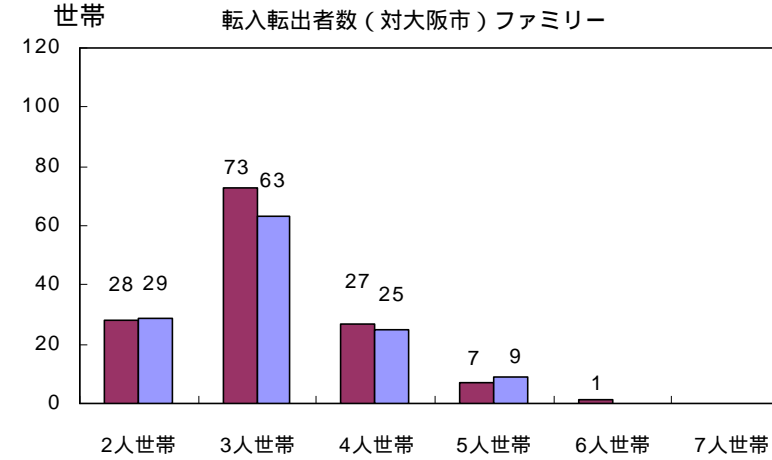
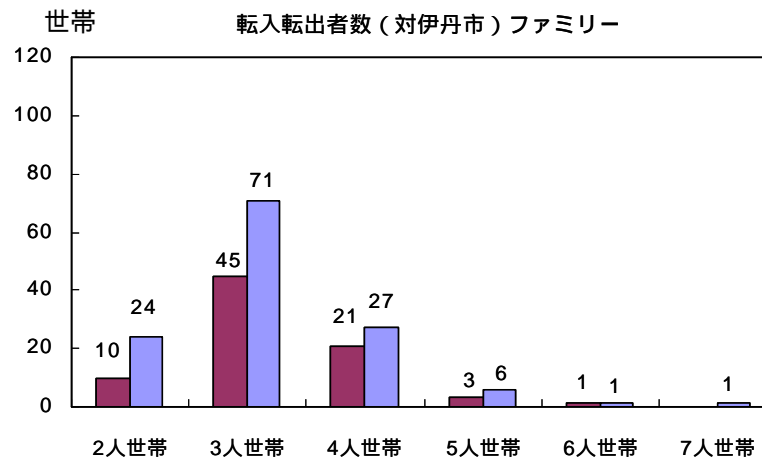
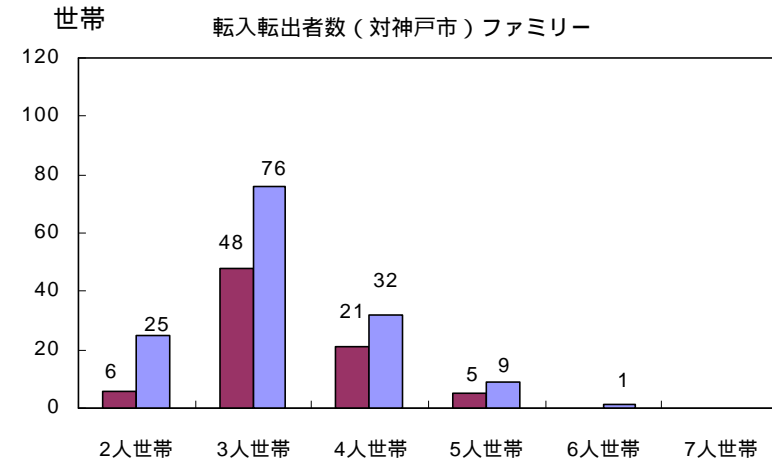
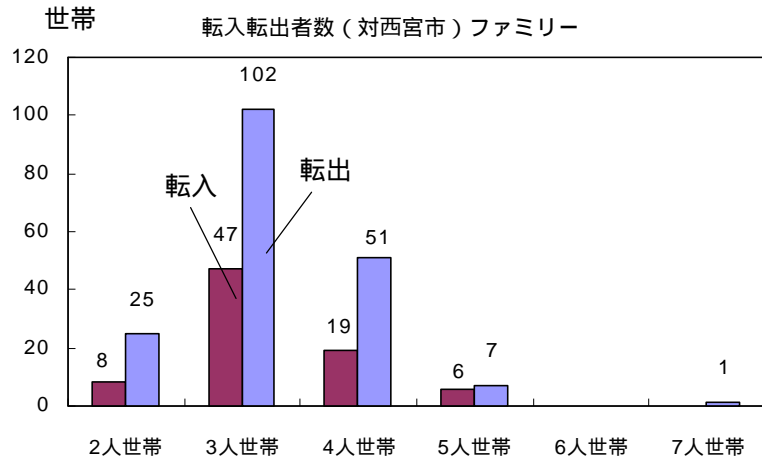


尼崎での世帯類型

- 転入、転出ともに、全ての世帯において、3人世帯の移動が最も多い。
- 西宮市への3人世帯、4人世帯の転出が突出。
- 転入において、兵庫県下では3人世帯に次いで4人世帯が多いが、大阪府下では北摂を除いて3人世帯に次いで2人と4人世帯がほぼ同数か、2人世帯が上回る。

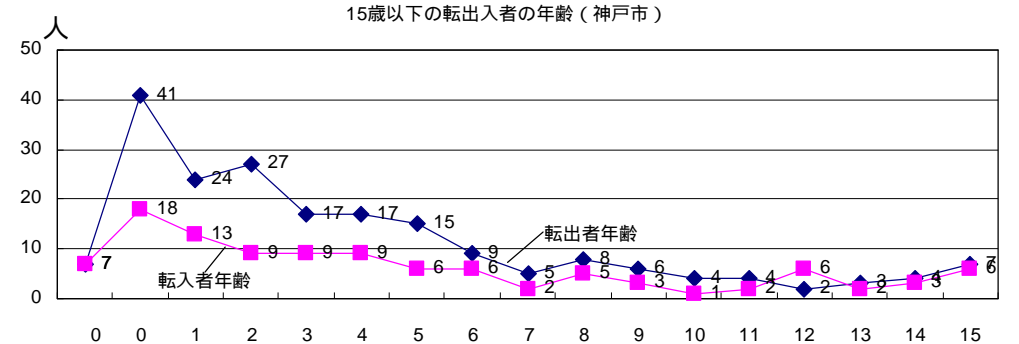
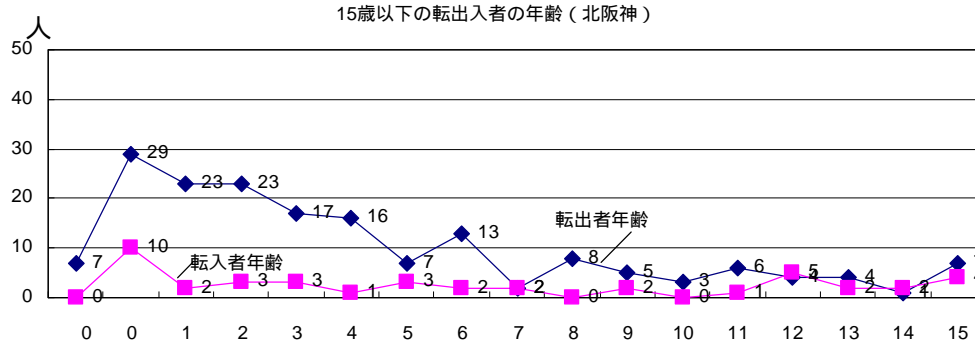
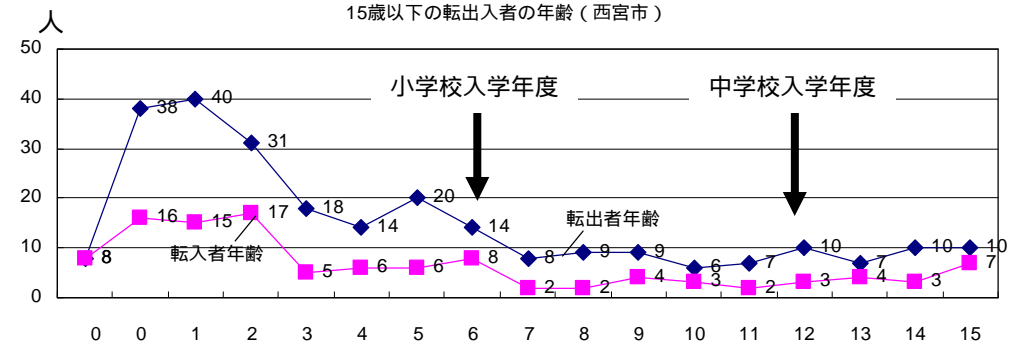
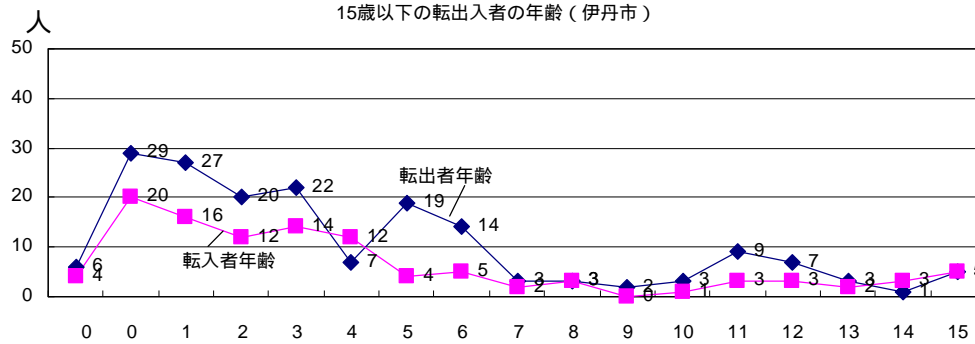
ファミリー世帯では転入、転出ともに3人世帯の移動が最も多い。大阪市からの転入、西宮市への転出が顕著。

世帯数 × 西宮市・神戸市・伊丹市・大阪市 (ファミリー)



西宮市への3人・4人世帯の転出超過が顕著。
 大阪市のみ3、4人世帯が転入超過。

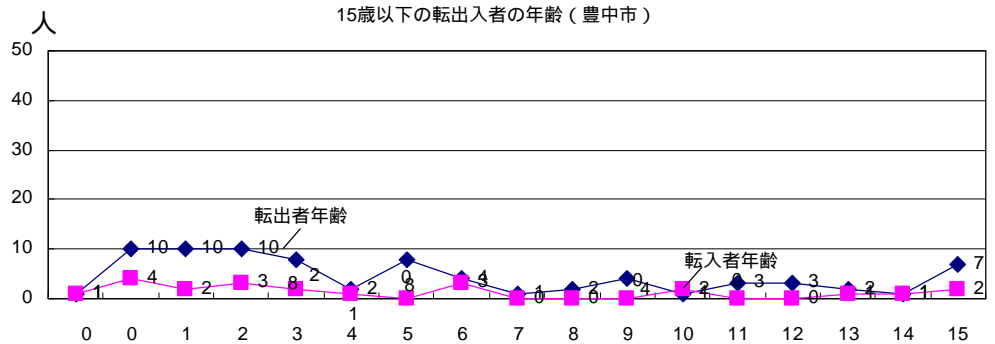
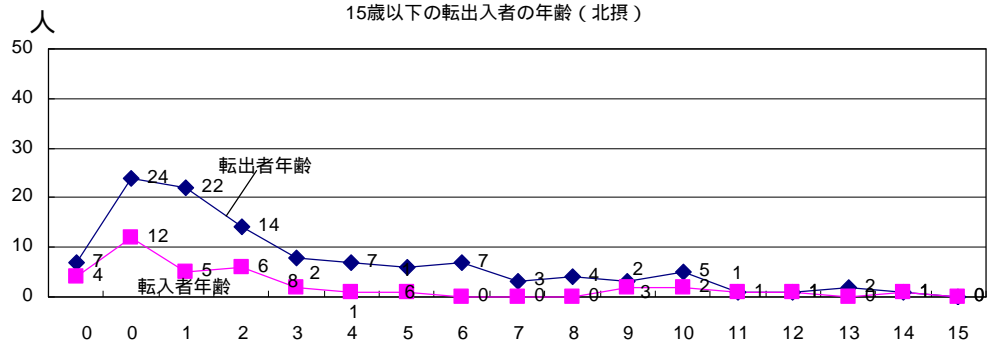
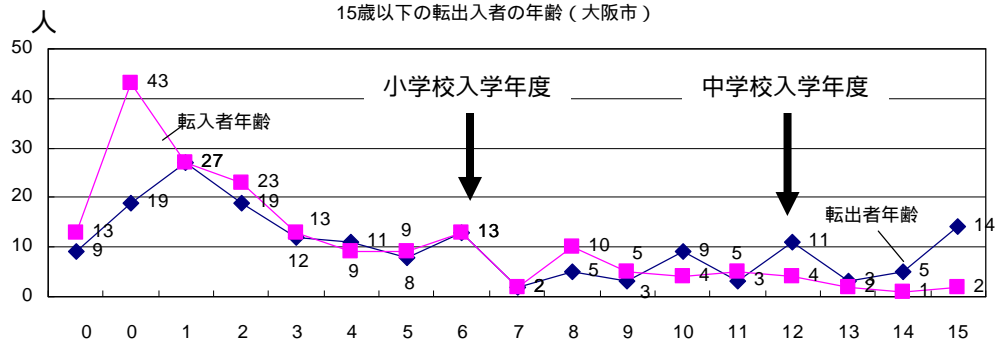
15歳以下 × 兵庫県下 転入元、転出先



□ いずれの都市も転入、転出ともに、全ての世帯において、0 - 2歳児までの移動が最も多く、小学校入学以降は転入、転出ともに10人以下で安定。

0歳児の西宮、神戸、北阪神(伊丹除く)への転出は転入の2 - 3倍。

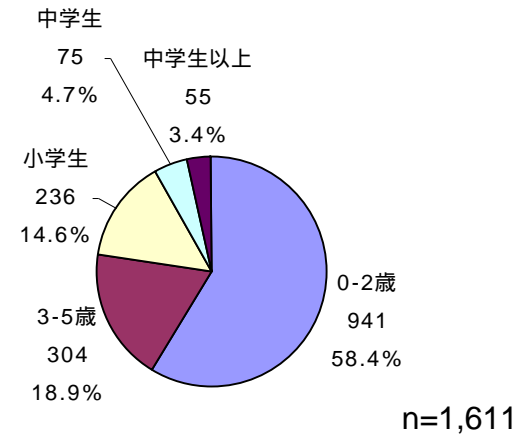
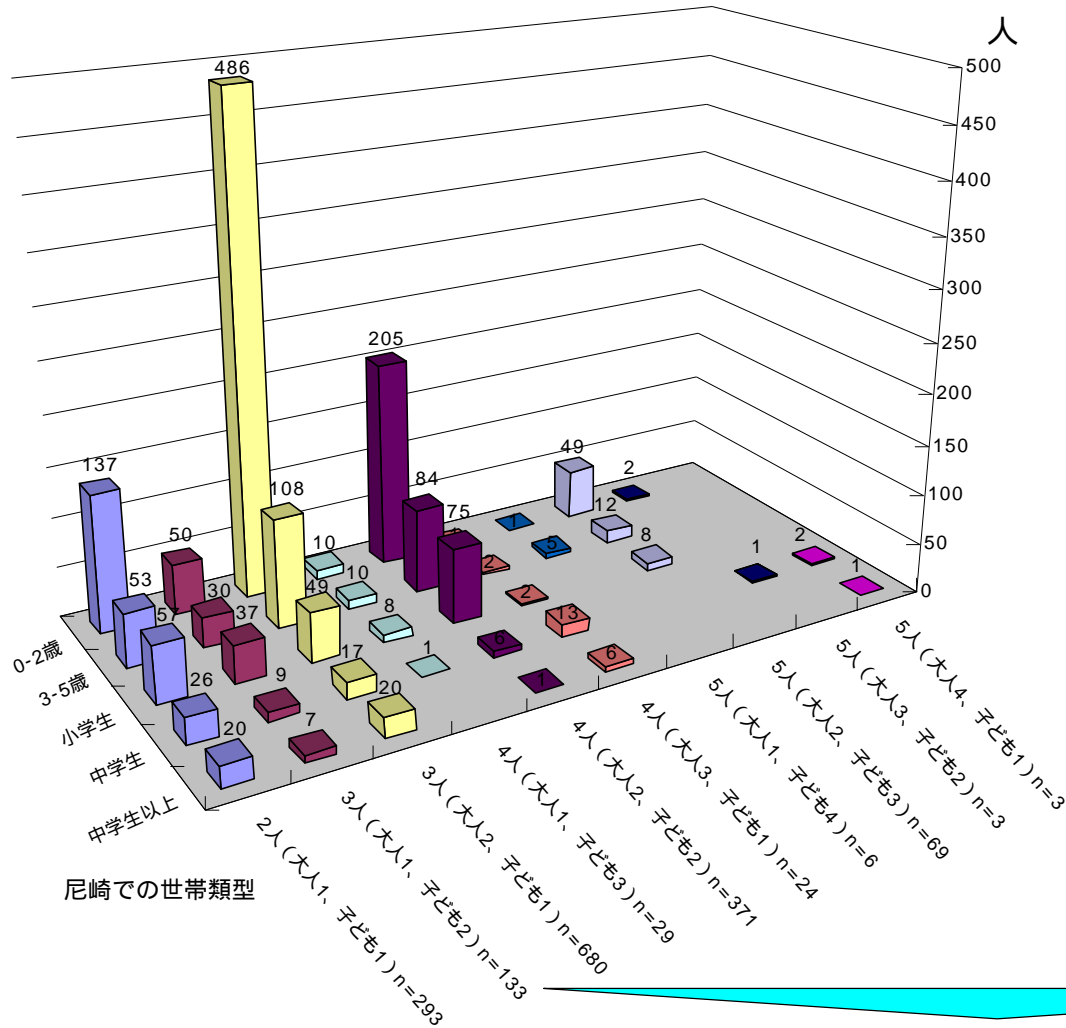
15歳以下 × 大阪府下 転入元、転出先



- いずれの市も転入、転出ともに、全ての世帯において、0-2歳児までの移動が最も多い。
- 大阪市だけは小学校入学前の全ての年齢で転入が転出と同数、もしくは転入超過。

大阪市内からは0-9歳児まで転入超過

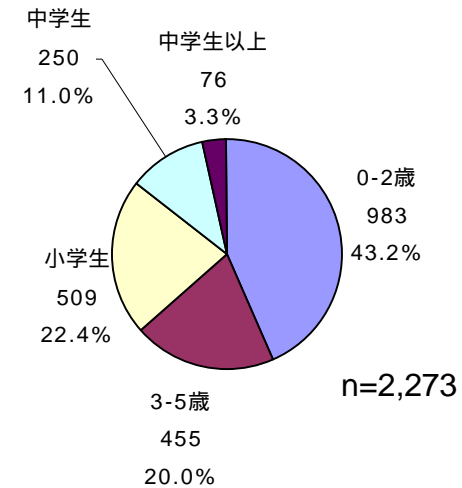
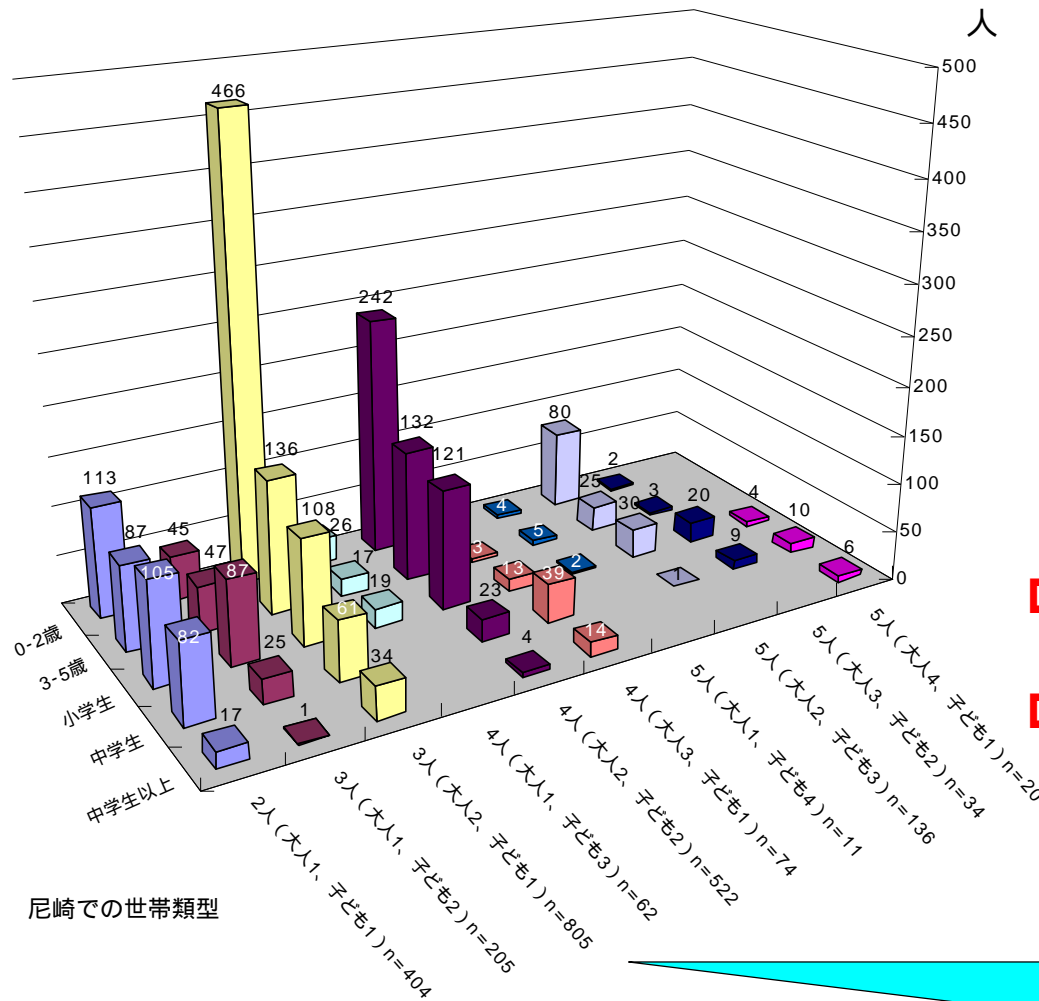
世帯類型 × 末子年齢 転出(ファミリー)



- 転出世帯の3/4が末子の年齢が未就学の子どもがいる世帯
- 最も多いのは3人世帯で0-2歳の子がいる世帯(全体の約3割)、次いで4人世帯で末子が0-2歳の世帯、3番目が2人世帯で0-2歳の子がいる世帯。

転出は3人世帯で0-2歳の子がいる世帯が最多

世帯類型 × 末子年齢 市内間転居(ファミリー)

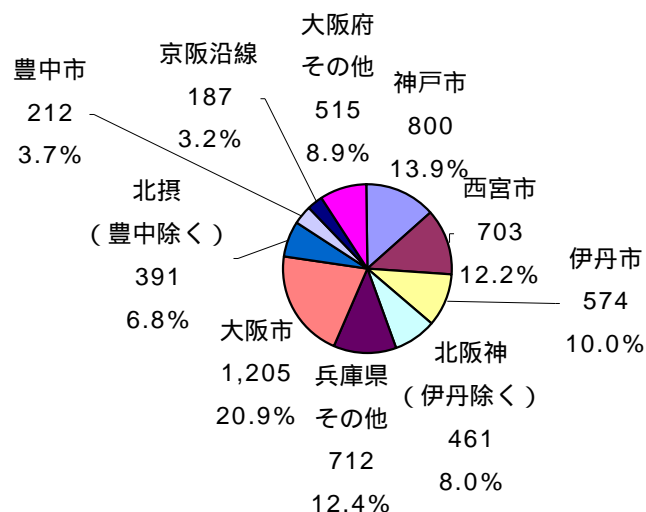


- 末子の年齢が未就学の子どもがいる世帯は2/3に下がる。
- 最も多いのは3人世帯で0-2歳の子がいる世帯(全体の約3割)、次いで4人世帯で末子が0-2歳の世帯、3番目が2人世帯で0-2歳の子がいる世帯。

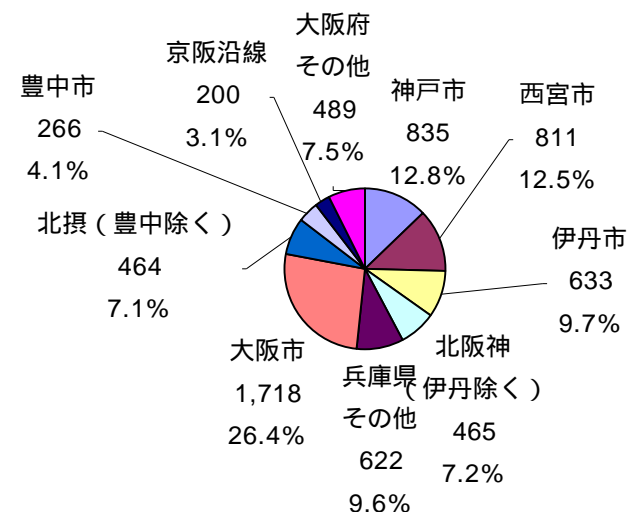
転出は3人世帯で0-2歳の子がいる世帯が最多。3-6歳、小中学生も市外転出に比べると増加

大阪府・兵庫県下転入元、転出先(非ファミリー世帯)

転入元(世帯数) n=5,760



転出先(世帯数) n=6,503



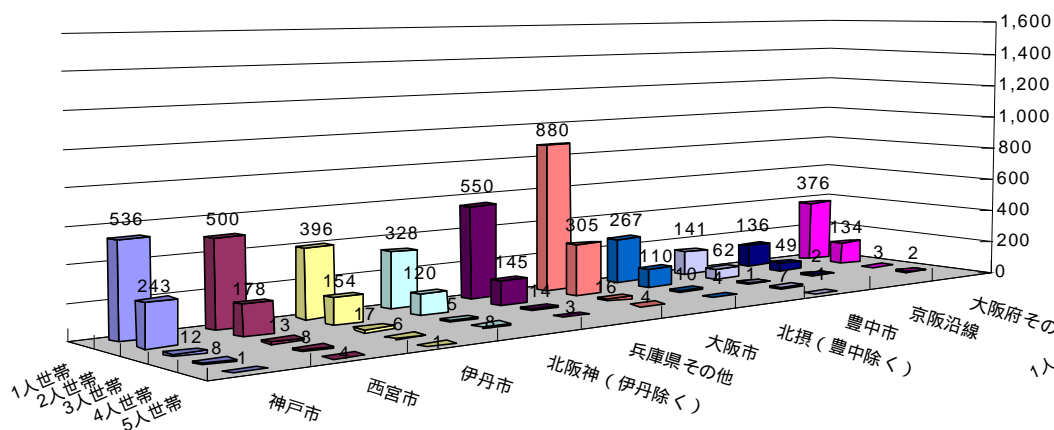
- 転入・転出ともに大阪府下では大阪市、兵庫県下で神戸市がトップ。
- 大阪・兵庫県下では神戸市と接する西宮市、伊丹市、大阪市への移動が約6割を占める。転出世帯のそれぞれ総世帯に占める割合は、神戸市(0.14%)、西宮市(0.49%)、伊丹市(0.98%)、大阪市(0.14%)

参考：推計人口による世帯数(H24.10.1現在) 神戸市686,366世帯、西宮市204,463世帯、伊丹市78,052世帯、大阪市1,341,555世帯

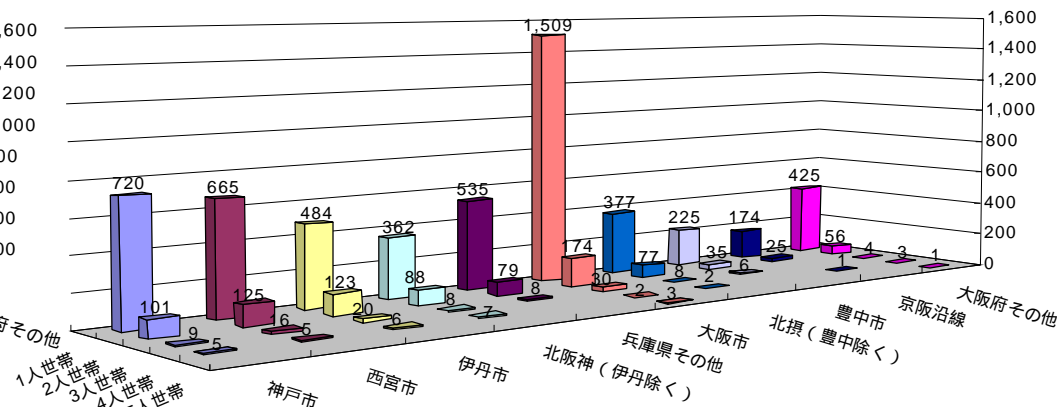
神戸市、西宮市、伊丹市、大阪市で約6割を占める。
豊中市よりも神戸市が多く、世帯数割合では伊丹が多い。

世帯数 × 大阪府・兵庫県 転入元、転出先 (非ファミリー)

転入元 (世帯数) n=5,760



転出先 (世帯数) n=6,503

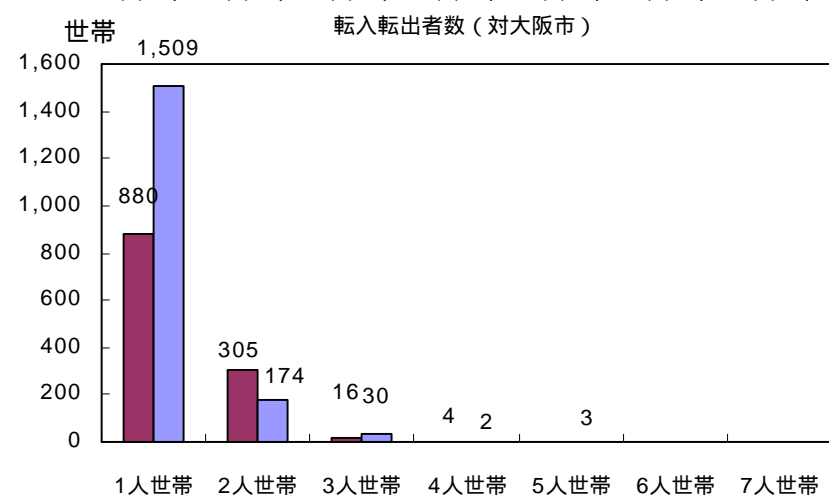
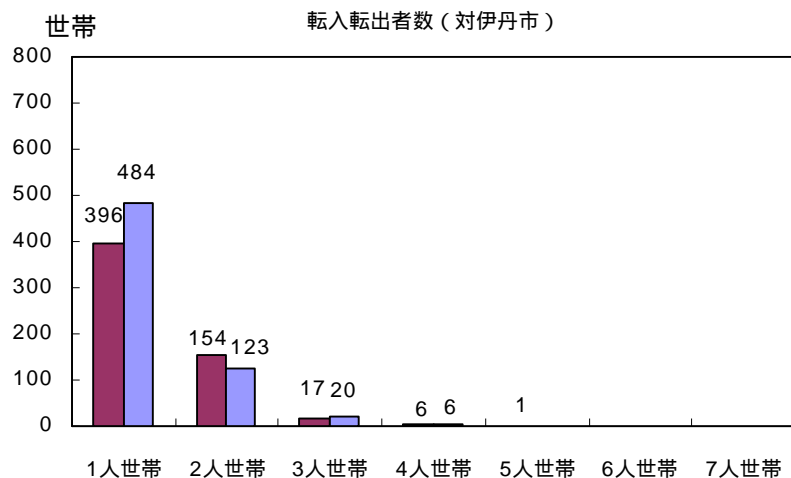
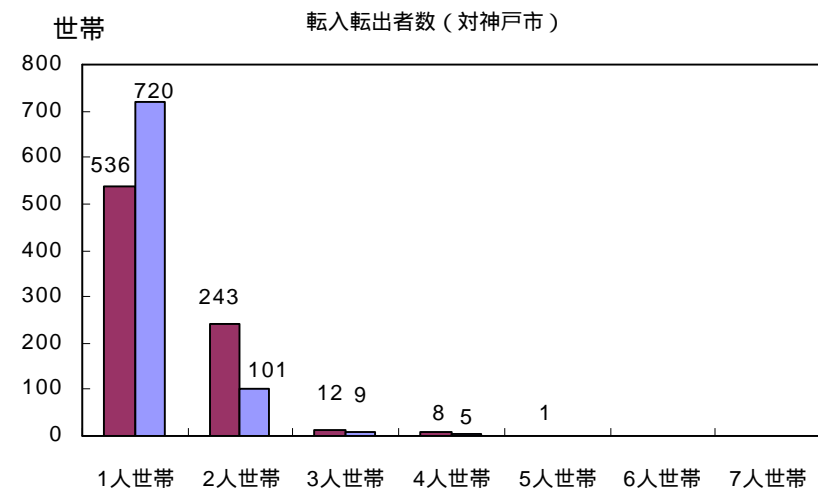
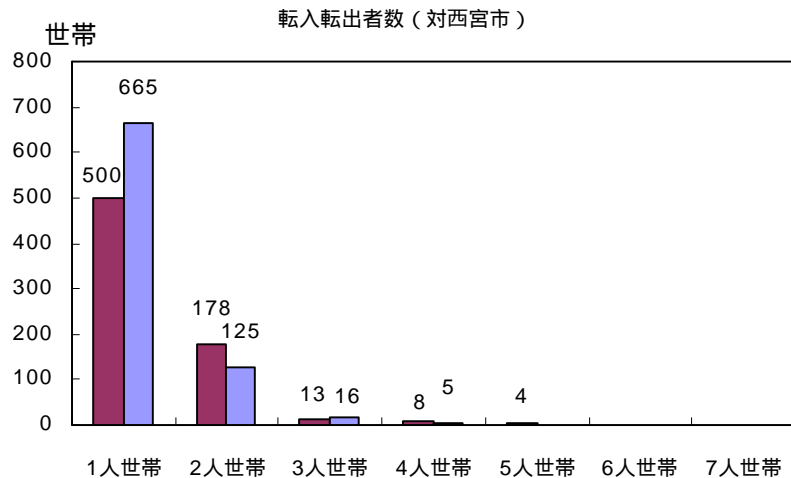


尼崎での世帯類型

- ❑ 大阪市への1人世帯の転出が突出。
- ❑ 2人世帯は全て転入超過。
- ❑ 1人世帯の移動が最も多く、次いで2人世帯、3人世帯...と世帯人数が増えるほどに少なくなる。
- ❑ 市・エリアで特筆すべき傾向は見られない。

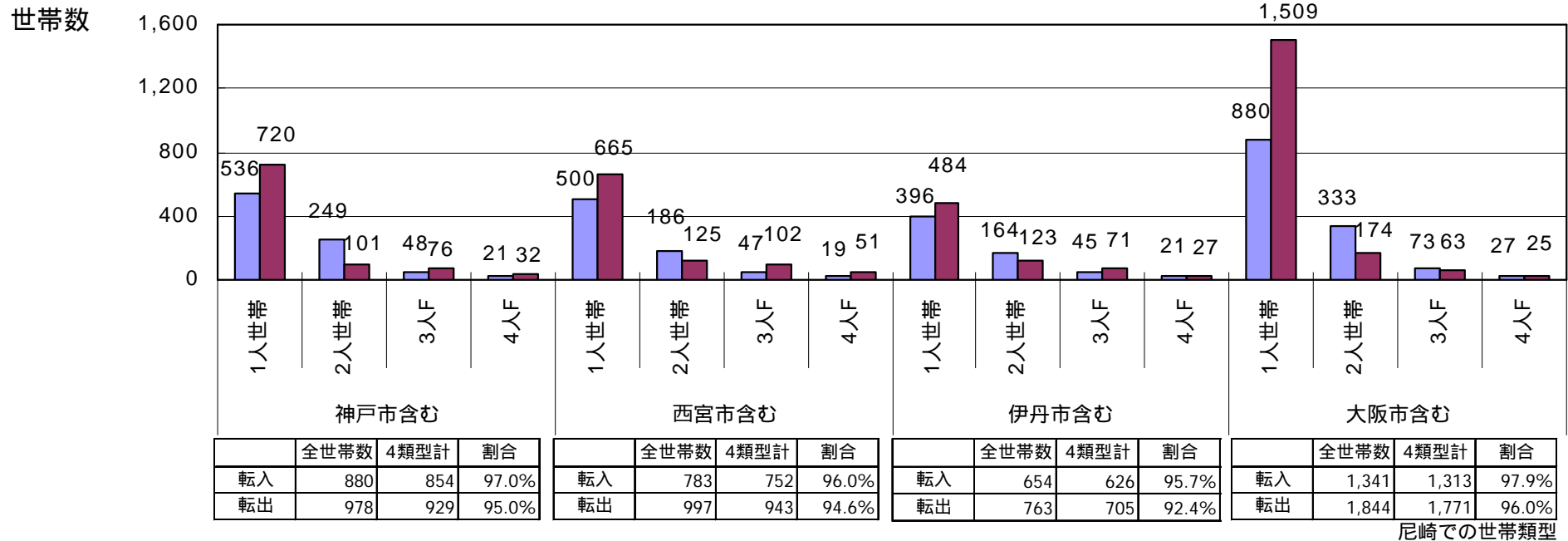
大阪市への1人世帯の転出が突出。2人世帯は全て転入超過

世帯数 × 西宮市・神戸市・伊丹市・大阪市 (非ファミリー)



1人世帯は4市全て転出超過。2人世帯は全て転入超過

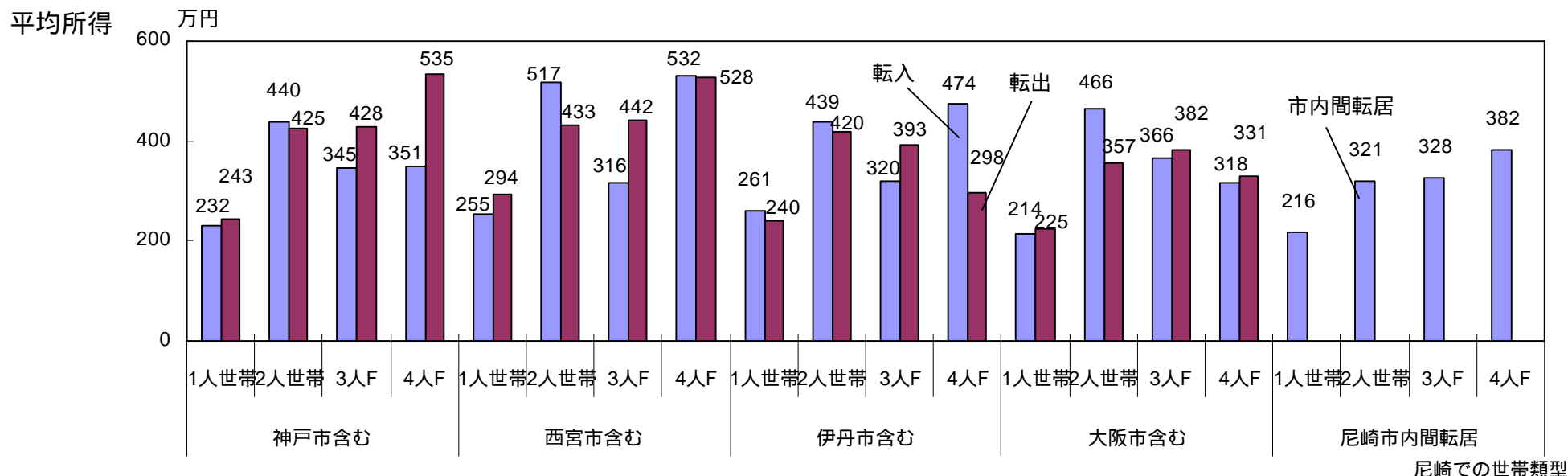
世帯類型 × 神戸市、西宮市、伊丹市、大阪市



- ❑ 大阪市からの1人世帯の転入・転出が突出。
- ❑ 4市ともに非ファミリーの2人世帯は転入超過
- ❑ ファミリー世帯では大阪市以外は転出超過、大阪市は転入超過

大阪市の1人世帯の転入・転出が突出。また、同市の非ファミリー-2人世帯、3・4人ファミリー世帯は転入超過。
 その他3市では非ファミリー-2人世帯以外、全て転出超過。

平均所得 × 世帯類型 × 神戸、西宮、伊丹、大阪、尼崎



- ❑ 非ファミリーの2人世帯の平均所得は、4市全て転入が転出を上回る
- ❑ 3人Fの平均所得は、4市全て転出が転入を上回る。神戸市・西宮市への転出者の平均所得は400万円を超えるが、伊丹・大阪は400万円を下回る。尼崎市内で転居した者は328万円であった。
- ❑ 4人Fのうち神戸市・西宮市への転出世帯の平均所得は500万円を超えるが、伊丹市・大阪市の平均所得は300万円前後と200万円の乖離。尼崎市市内間転居は382万円であった。

非ファミリー2人世帯の平均所得は転入 > 転出
 市外転出のファミリー世帯の平均所得は神戸・西宮と伊丹・大阪に大きく乖離。(市内間転居は3人Fで最低、4人Fで中位)

市外からの転入先、市外への転出元トップ10と平均所得(ファミリー)

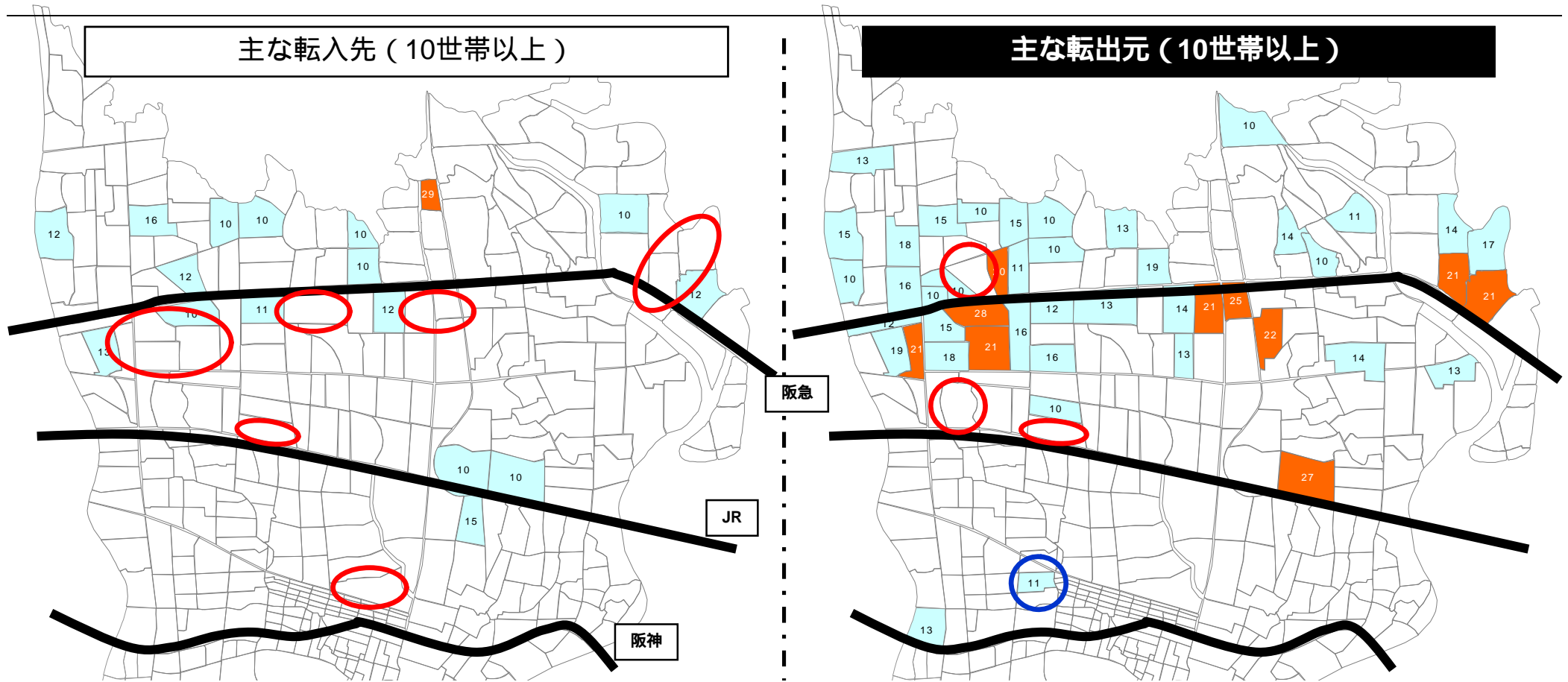
転入先トップ10	ファミリー世帯	
	世帯数	平均所得 (万円)
塚口本町 5	29	412
武庫之荘 5	16	397
金楽寺町 1	15	376
南武庫之荘 8	13	451
武庫之荘 1	12	792
武庫元町 3	12	356
南塚口町 2	12	161
東園田町 6	12	226
武庫之荘本町 3	11	437
上ノ島町 1	11	410
計	143	

転出元トップ10	ファミリー世帯	
	世帯数	平均所得 (万円)
南武庫之荘 1	28	655
潮江 1	27	831
東塚口町 1	25	632
上坂部 2	22	438
南武庫之荘 7	21	416
南塚口町 3	21	707
武庫之荘東 1	20	479
東園田町 5	20	364
南武庫之荘 3	19	516
塚口町 1	19	533
計	222	

- ❑ 非ファミリー世帯トップ10と重複する町名は転入先で2つ(印)。ファミリー世帯と重複しない。一方、転出では5つ重複している。
- ❑ ファミリー世帯トップ10で平均所得は転出元の方が高い。潮江1は800万円を超える。
- ❑ 転出元と転入先は全く重ならない。

転入先トップ10で、非ファミリー世帯との重なりが少なく、同じファミリーでも転出世帯と重複しない

市外からの転入先、市外への転居元の分布(ファミリー)



阪急沿線各駅とJR尼崎駅に偏っている。

非ファミリー世帯が100世帯以上転入している東園田1・5、東塚口1、南塚口3、南武庫之荘2-5、立花1、東難波5はファミリーでは10世帯も満たない。(赤丸)。

非ファミリー世帯が100世帯以上転出している武庫之荘1、立花1、水堂1で、ファミリー世帯は10世帯に満たない。一方で非ファミリー世帯で転出が顕著でない崇徳院2は11世帯が転出(青丸)。

市外からの転入先、市外への転出元トップ10と平均所得(非ファミリー)

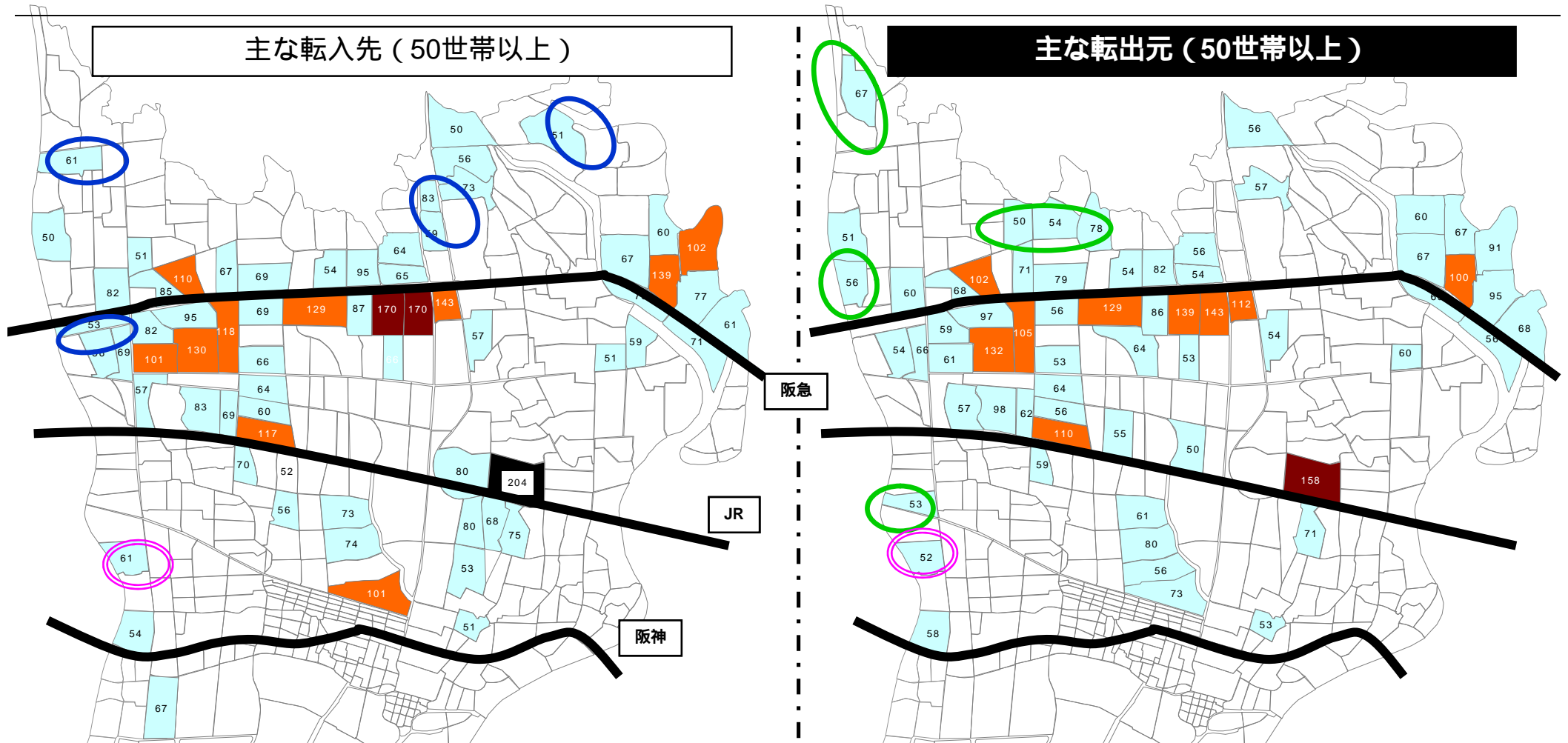
転入先トップ10		非ファミリー	
	地名	世帯数	平均所得 (万円)
1	潮江 1	204	516
2	南塚口町 2	170	282
3	南塚口町 3	170	283
4	東塚口町 1	143	342
5	東園田町 5	139	245
6	南武庫之荘 3	130	314
7	南塚口町 8	129	220
8	南武庫之荘 2	118	336
9	立花町 1	117	262
10	武庫之荘 1	110	333
	計	1,430	

転出元トップ10		非ファミリー	
	地名	世帯数	平均所得 (万円)
1	潮江 1	158	427
2	南塚口町 3	143	332
3	南塚口町 2	139	352
4	南武庫之荘 3	132	306
5	南塚口町 8	129	260
6	東塚口町 1	112	314
7	立花町 1	110	273
8	南武庫之荘 2	105	311
9	武庫之荘 1	102	321
10	東園田町 5	100	267
	計	1,230	

- 転入、転出ともに潮江1が最も移動が激しい。世帯の平均所得も最も高い。
- 転入先、転出先トップ10全て重複している。(印)

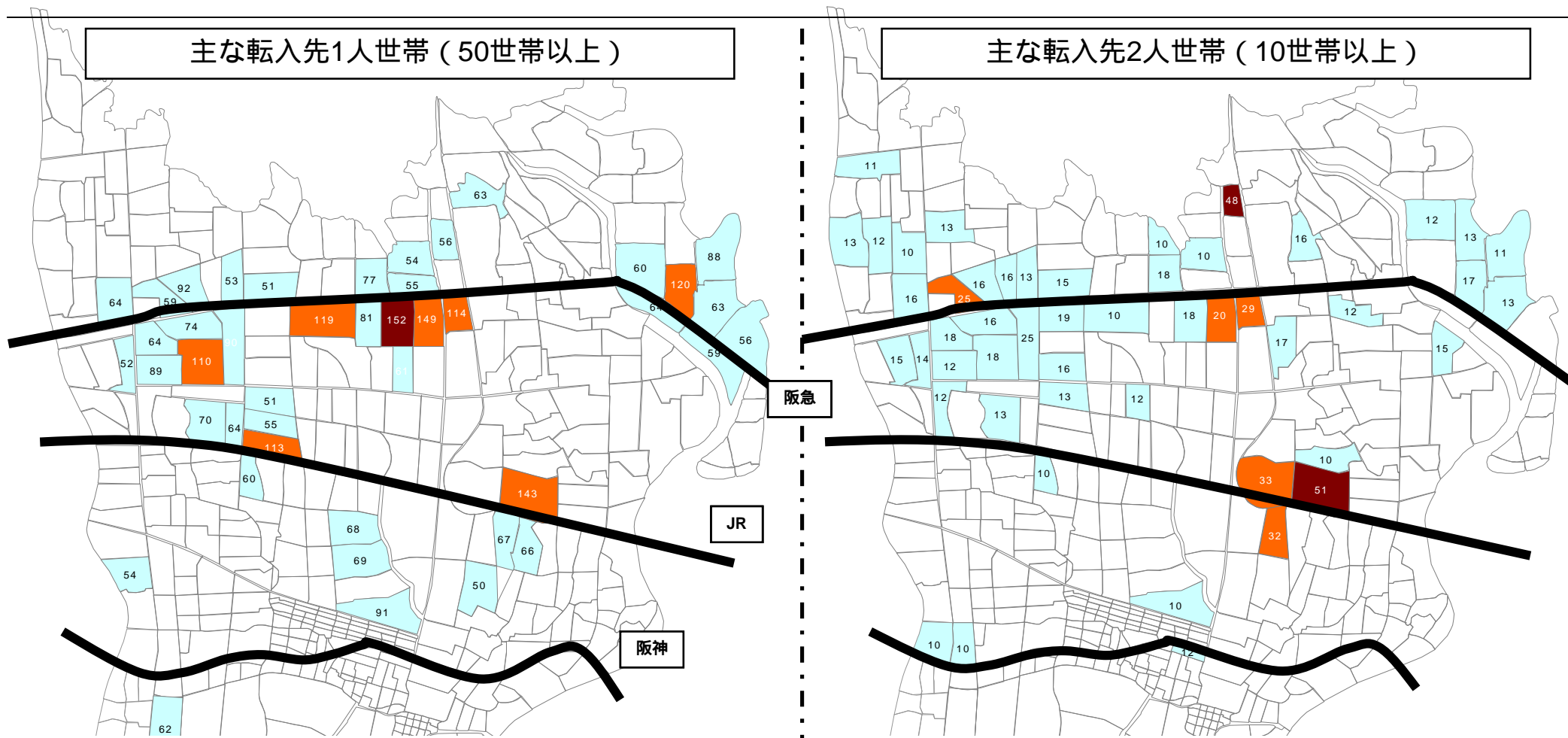
非ファミリー世帯は市全体で400世帯が転入超過しているうち、トップ10地区で200世帯が転入超過

市外からの転入先、市外への転居元の分布 (非ファミリー)



転入、転出ともに、阪急・JR・阪神沿線各駅に偏っている。
 駅から離れた西昆陽2、武庫3、富松3・塚口6・武庫之荘本町3、稲葉荘1で転出が、常松1、南武庫之荘6、塚口本町5・6、田能3で転入が目立つ。大島2は転出も転入も多い。

市外からの転入先の分布 (非ファミリー1人、2人世帯)



1人、2人世帯ともに、阪急・JR・阪神沿線の各駅周辺に偏っている。
 1人世帯はより駅前に集中している。潮江1、南塚口3、東塚口1は1人、2人世帯ともに多い。
 1人世帯が2人世帯より100世帯以上多いのは南塚口2・3・8、立花1、東園田5。
 1人世帯が50世帯未満で2人世帯が20世帯以上は塚口本町5、潮江5、金楽寺1。

市内間転居者 地区別割合

H24		前住所（地区） 人数割							総計
		不明	中央	小田	大庄	立花	武庫	園田	
現住所 (地区)	中央	4.8%	58.4%	10.7%	8.7%	11.1%	2.9%	3.3%	2,214人
	小田	5.3%	8.6%	61.5%	3.5%	7.6%	2.2%	11.4%	3,169人
	大庄	5.1%	9.9%	4.0%	60.1%	12.8%	5.5%	2.6%	1,996人
	立花	5.2%	6.9%	5.1%	5.9%	52.5%	13.0%	11.4%	4,613人
	武庫	6.5%	2.8%	1.9%	5.0%	19.1%	60.3%	4.4%	3,209人
	園田	6.0%	2.2%	9.5%	0.8%	9.2%	3.2%	69.2%	3,948人
	総計	1,062人	2,258人	2,933人	1,965人	4,141人	2,904人	3,886人	19,149人

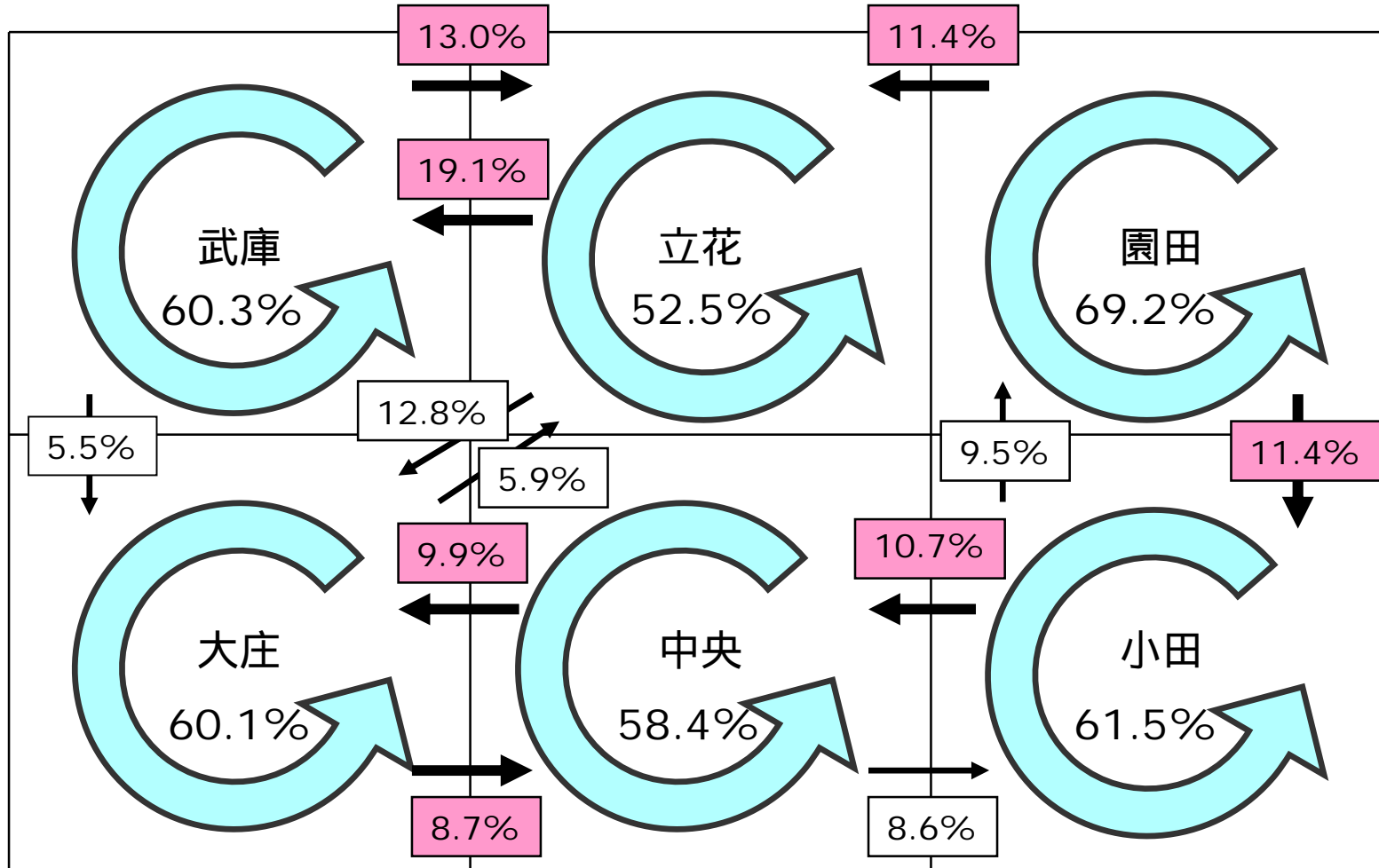
参考 (H16年)		前住所（地区） 人数割					
		中央	小田	大庄	立花	武庫	園田
現住所 (地区)	中央	59.4%	6.7%	11.5%	6.1%	1.3%	1.9%
	小田	6.3%	66.7%	5.8%	11.4%	2.5%	7.8%
	大庄	10.9%	5.3%	63.5%	2.6%	2.5%	1.1%
	立花	12.5%	8.0%	15.4%	49.1%	19.0%	11.7%
	武庫	4.7%	1.3%	1.9%	15.8%	67.1%	2.9%
	園田	6.3%	10.7%	1.9%	14.0%	7.6%	74.6%

(参考)6地区(現住所)別の所得分布			
中央地区	95万円	立花地区	115万円
小田地区	108万円	武庫地区	119万円
大庄地区	85万円	園田地区	109万円

人ベースで算出しており、所得0とマイナスの世帯も含んでいます。
(世帯の平均所得は、所得0とマイナスを省いています。)

市内間転居に関しては、同じ地区同士での移動が多い。
いずれの年度も、園田地区から園田地区への移動が最多。立花地区同士の移動が最少。

市内間転居者 地区別割合

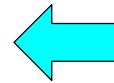


同地区を含め、移動先として多い順に3つ抜粋（人数）

南部から北部への移動は顕著ではない。大庄から園田のように隣接していない地区の移動は少ない(0.8%)。

転居先、転居元トップ10と平均所得(市内間・ファミリー)

転居先トップ10	ファミリー世帯	
地名	世帯数	平均所得 (万円)
金楽寺町1	55	373
塚口本町5	45	452
水堂町4	28	277
若王寺2	27	531
上坂部2	26	258
武庫之荘1	26	666
口田中1	23	295
富松町1	23	279
潮江5	22	628
西川2	21	184

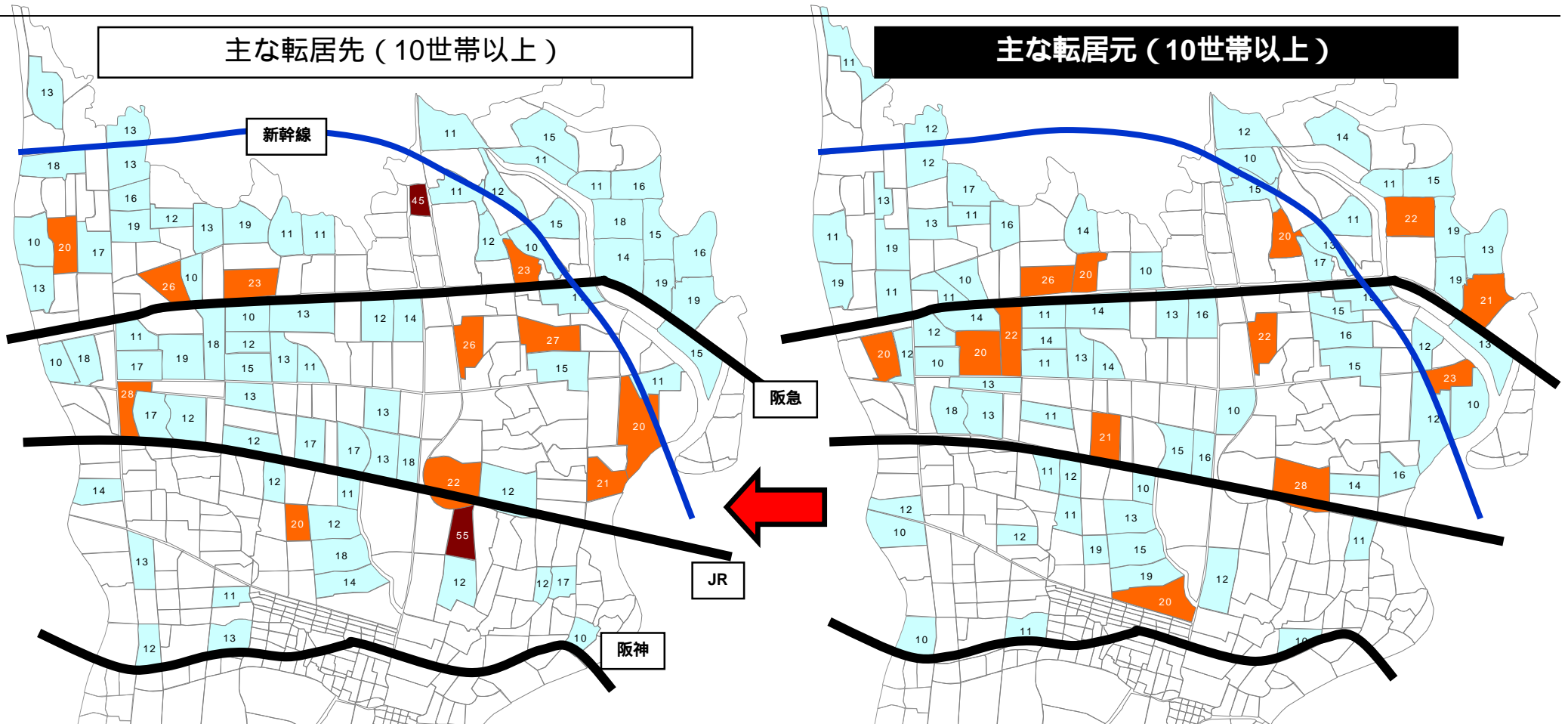


転居元トップ10	ファミリー世帯	
地名	世帯数	平均所得 (万円)
潮江1	28	613
富松町1	26	246
額田町	23	509
上坂部2	22	659
東園田町3	22	637
南武庫之荘2	22	281
三反田町2	21	381
東園田町6	21	331
御園1	20	441
東難波町5	20	259

- ❑ 転居先と転居元で重複する町名は2つ(印)しか重複しない。上坂部2は転居元のなかで平均所得が最も高い
- ❑ 転居先の金楽寺町1、塚口本町5は大規模集合住宅の建設によるものと思われる。
- ❑ 非ファミリー世帯と重複するのは転居先が4つ、転居元が3つ(印)。非ファミリー世帯とも重複しない。
- ❑ 市外からの転入(印)・転出(印)と重なるのは3つと2つと重複が少ない

トップ10では、市内間転居の転居先と市外からの転入先と重複しない

転居先、転居元の分布(市内間・ファミリー)(10世帯以上)

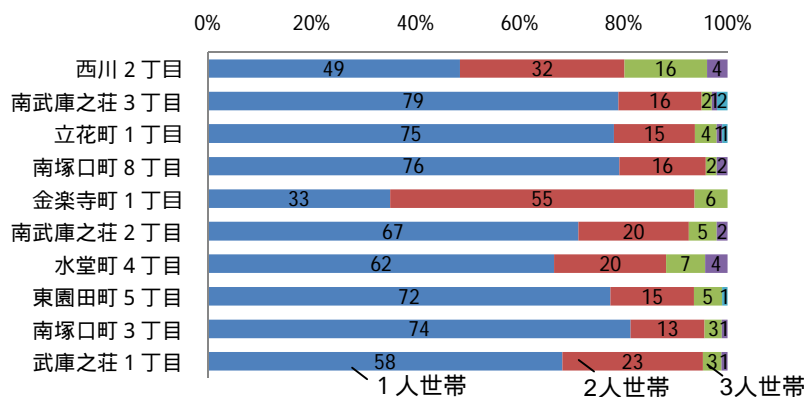
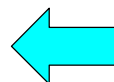


市外からの転入・転出(ファミリー)と比較して、移動が駅周辺だけでなく、市内広域に広がる。新幹線以北やJR～阪神まで広がりが見られる。

転居先、転居元トップ10と平均所得(市内間・非ファミリー)

転居先トップ10	全世帯	
	世帯数	平均所得 (万円)
西川 2	101	193
南武庫之荘 3	100	284
立花町 1	96	259
南塚口町 8	96	232
金楽寺町 1	94	398
南武庫之荘 2	94	277
水堂町 4	93	327
東園田町 5	93	255
南塚口町 3	91	238
武庫之荘 1	85	468

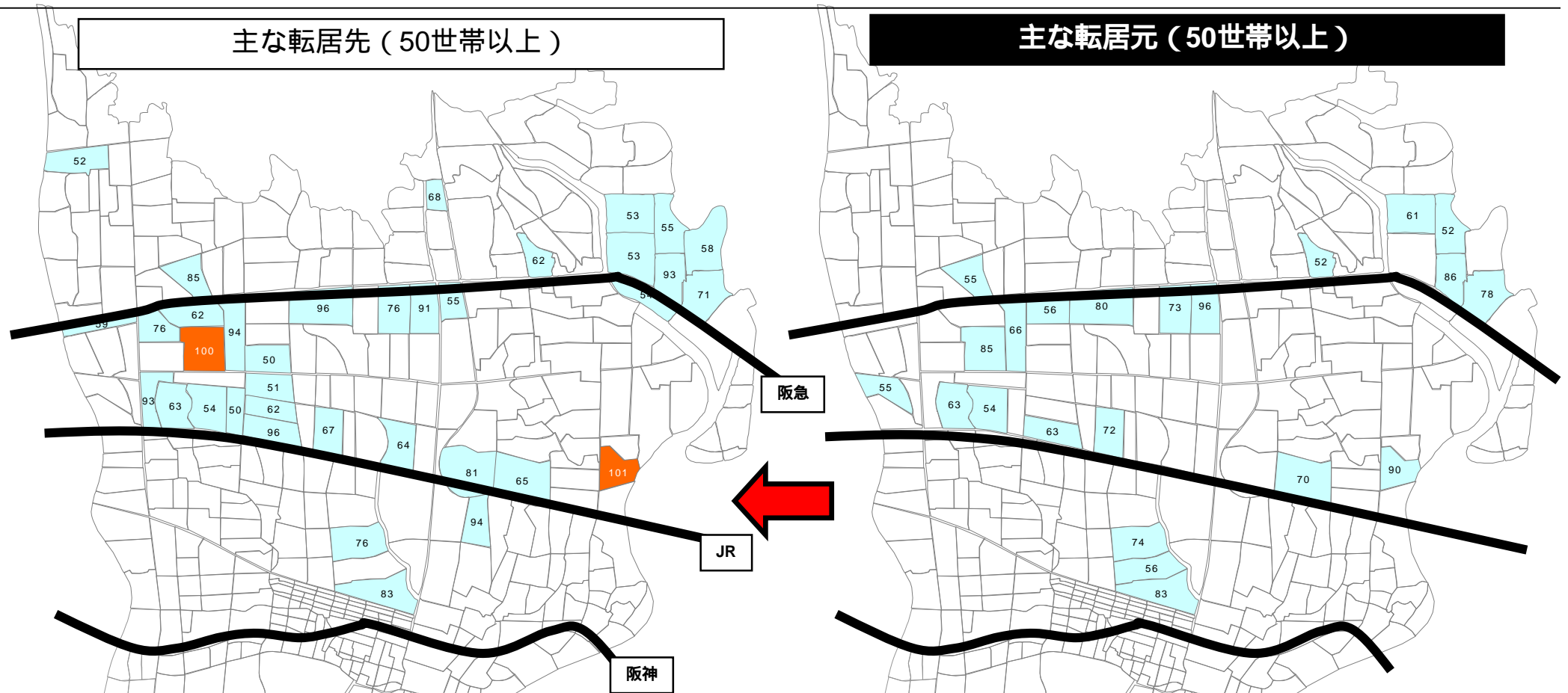
転居元トップ10	全世帯	
	世帯数	平均所得 (万円)
南塚口町 3	96	292
西川 2	90	215
東園田町 5	86	302
南武庫之荘 3	85	301
東難波町 5	83	189
南塚口町 8	80	267
東園田町 6	78	233
東難波町 3	74	208
南塚口町 2	73	270
三反田町 2	72	219



- 転居先、転居元で重複する町名は5つ(印)
- 転居先と市外からの転入先とは7つ重複(印)、
転居元と市外への転出元とは5つ重複(印)
- 転居先トップ10のうち金楽寺町の単身者4割、西川2の5割未満を除き、武庫之荘1を含むその他は7 - 8割が単身者。

トップ10中、7か所で市内間転居の転居先と市外からの転入先が重なる

転居先、転居元の分布(市内間・非ファミリー) (50世帯以上)



転居元・転居先ともに阪急以南～JR以北に偏っており、その偏りは似ている。

転居元で100件を超える地区はない。転居先の西川2は県営住宅の建て替えによるものと思われる。